

令和6年度 第4回社会教育委員会議次第

日 時：令和7年（2025年）3月25日（火）

15時00分～17時00分

会 場：生涯学習センター 5階 第1学習室

1 開会

2 報告

- （1）令和7年度第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会
第2回実行委員会について
- （2）よこすか電子図書館の導入実績について（中央図書館）【資料1】

3 議事

家庭教育支援について

- （1）市ホームページ掲載の関連情報（拾いどり）【資料2】
- （2）委員の皆様からの知見

4 その他連絡事項

第 56 回関東甲信越静社会教育研究大会
神奈川大会実行委員会

第 2 回 実 行 委 員 会

日 時 令和7年3月18日(火) 15:00~16:45

場 所 総合教育センター301研修室

第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会委員名簿

令和6年3月17日現在

	県市町村名	委 員			所属 部会
		県社教連理事	市町村職員		
			氏名	所属・職名	
1	神奈川県	コイケ シゲコ 小池 茂子	—	—	総・研
		イトウ マキコ 伊藤 真木子	—	—	総務
2	横浜市	選定中	イマイズミ ハルナ 今泉 春奈	横浜市生涯学習文化財課・職員	総務
		選定中	—	—	
3	川崎市	ササイ ヒロミ 笹井 宏益	オダ ヤスヒロ 小田 康博	川崎市生涯学習推進課・職員	運営
		イグチ カホ 井口 香穂	—	—	
4	相模原市	ハダノ レイコ 秦野 玲子	アマノ ミツヒロ 天野 光洋	相模原市生涯学習課 副主幹(社会教育主事)	研究
		オオクボ ムネトシ 大久保 宗俊	岩井 修	—	
5	横須賀市	ヤマギシ マサト 山岸 雅人	エンドウ マサヒロ 遠藤 雅弘	横須賀市生涯学習課・ 主任兼社会教育主事	研究
6	鎌倉市	シモヤマ ヒロコ 下山 浩子	カミナガ ユウタ 神長 勇太	鎌倉市生涯学習課・社会教育主事	研究
7	藤沢市	ニシムラ マサヨ 西村 雅代	スガヤ カズヒコ 菅谷 和彦	藤沢市生涯学習総務課・上級主査	(総) 運営
		ミヤケ ユウコ 三宅 裕子	—	—	
8	茅ヶ崎市	ヨシハラ ヒロコ 吉原 弘子	キムラ カズユキ 木村 和幸	茅ヶ崎市社会教育課・主任	総務
9	逗子市	ツノダ ススム 角田 進	アオヤマ ヤスノリ 青山 泰紀	逗子市社会教育課・事務職員	研究
10	三浦市	ササキ ツキエ 笹谷 月慧	ミナト トモヒコ 湊 智彦	三浦市文化スポーツ課・グループリーダー	研究
11	葉山町	ササキ カズコ 佐々木 和子	カワタ ケイスケ 川田 圭亮	葉山町生涯学習課・主査	(総)研究
12	寒川町	モリ カズヒコ 森 和彦	ヤマグチ アキコ 山口 明子	寒川町教育政策課・副主幹	研究
13	厚木市	アスカイ ミツハル 飛鳥井 光治	オオカワ ユウジ 大川 祐史	厚木市市民協働推進課・副主幹兼公民館係長	広報
14	大和市	マルタ アキフミ 丸田 昭文	フジノ アキラ 藤野 暁	大和市図書・学び交流課・ 主査兼社会教育主事	(総)広報
15	海老名市	カネダ シンイチロウ 金田 ゆかり	シゲオカ シンイチロウ 重岡 慎一朗	海老名市学び支援課・ 副主幹兼指導主事兼社会教育主事	広報
16	座間市	アカバネ タカヒデ 代赤羽 孝秀	オハタ エミ 小幡 恵美	座間市生涯学習課・生涯学習係長	広報
17	綾瀬市	シバヤ トシオ 澁谷 敏夫	アオイ アオイ 田崎 葵	綾瀬市生涯学習課・主事	広報
18	愛川町	ハギワラ ノブモト 萩原 麻元	ハラダ ヒロミツ 原田 博光	愛川町生涯学習課・ 副主幹兼社会教育主事	広報
19	清川村	カワセ トミオ 川瀬 十三男	ナカザワ シノブ 中澤 志伸	清川村生涯学習課・課長	広報
20	平塚市	マルシマ タカオ 丸島 隆雄	キムラ ケイタ 木村 圭太	平塚市社会教育課・主査	研究
21	秦野市	アサクラ トオル 朝倉 徹	カナグチ ヨシコ 金口 美子	秦野市生涯学習課・主査	総務
22	伊勢原市	フルサト タカシ 古里 貴士	タハラ コウザブロウ 田原 弘三郎	伊勢原市社会教育課・ 主事兼社会教育主事	研究
23	大磯町	スズキ アツコ 鈴木 敦子	クマガワ カオリ 熊澤 香織	大磯町生涯学習課・副課長兼係長	総務
24	二宮町	クボタ ヒデミ 久保田 秀実	フタミ クニオ 二見 公仁男	二宮町生涯学習課・副主幹	研究
25	南足柄市	タカハシ スズコ 高橋 鈴子	スズキ ヒロタカ 鈴木 寛隆	南足柄市生涯学習課・主幹	運営
26	中井町	タナカ エリコ 田中 恵里子	ハラ マナブ 原 学	中井町生涯学習課・主幹(兼)班長	運営
27	大井町	カンノ マサシ 神野 正志	オギノ ヨシノブ 荻野 義信	大井町生涯学習課・ 副主幹兼社会教育主事	運営
28	松田町	ヨシダ ノブオ 代吉田 信男	ウチダ アケミ 内田 明美	松田町教育課・社会教育指導員	運営
29	山北町	カワイ ヨシテル 河合 剛英	イケダ マミ 池田 真実	山北町生涯学習課・主事兼社会教育主事	運営
30	開成町	オダ タケシ 小田 猛	エンドウ ノリヒコ 遠藤 康彦	開成町生涯学習課・副主幹	運営
31	小田原市	キムラ ヒデアキ 木村 秀昭	シバヤ アキラ 渋谷 晃	小田原市生涯学習課・主査	運営
32	箱根町	イシイ オサム 石井 修	ウチダ ヒデオミ 内田 秀臣	箱根町生涯学習課・課長	運営
33	真鶴町	オクツ ヒデタカ 奥津 秀隆	オオタケ ケンジ 大竹 建治	真鶴町教育課・ 課長補佐兼社会教育係長	運営
34	湯河原町	キムラ ケンジロウ 木村 建次郎	トキワ シンギ 常盤 茂樹	湯河原町社会教育課 副課長兼社会教育・青少年係長	運営

事 務 局	事務局長	鈴木 智久	神奈川県生涯学習課	総務・研究
	事務局次長	藤原 幸雄	神奈川県生涯学習課	広報
	事務局員	品田 博行	神奈川県生涯学習課	全
		村松 玲子	神奈川県生涯学習課	運営
		首藤 明	湘南三浦教育事務所指導課	研究
		谷島 花	県央教育事務所指導課	広報
		中山 理恵	中教育事務所指導課	総務
		宮川 由大	県西教育事務所指導課	運営
		中村 貴之	県西教育事務所足柄上指導課	運営

第 56 回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会
第 2 回 実 行 委 員 会 次 第

日時 令和 7 年 3 月 18 日 (火) 15 : 00 ～ 16 : 45

場所 総合教育センター301 研修室

1 あいさつ

第 56 回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会委員長

小池 茂子

2 議 題

(1) 総務部会 [資料 1 - 1、1 - 2、総務部会参考資料 1、2]

- ・ 開催要項 (案) について

(2) 研究部会 [資料 2 - 1、2 - 1、2 - 3]

- ・ シンポジウム登壇者および分科会助言者について
- ・ 分科会の運営について
- ・ 第 3 分科会における事例発表未決定について

(3) 運営部会 [資料 3]

- ・ 会場案内の配置について
- ・ スタッフの目印について

(4) 広報部会 [資料 4、広報部会参考資料 1 - 1 ～ 5 - 9]

- ・ 大会冊子について
- ・ 資料コーナーについて
- ・ 協賛金について

(5) その他 [資料 5 - 1 ～ 5 - 6]

- ・ 大会予算 (案) について
- ・ 大会参加について
- ・ 謝金および大会参加費・旅費について
- ・ キャリア会について
- ・ その他

総務部会 報告

1 開催要項（案）について

報告事項

○開催要項 3 趣旨について→ 実行委員会で検討後、事務局で再調整を実施
小池会長の承認により決定

○開催要項 4 主催/共催について

登壇者 【来賓】

神奈川県知事（未定）、横浜市長（未定）、神奈川県公民館連絡協議会会長
神奈川県地域婦人団体連絡協議会会長、神奈川県社会教育協会会長

【主催】

第 56 回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員長

第 56 回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会副実行委員長

一般社団法人全国社会教育委員連合会長、神奈川県教育委員会教育局長

○開催要項 5 後援について

（株）タウンニュースを削除する。後援は事務局から、協賛金は広報部会から打診を進める。

○開催要項 7 及び 9 参加者及び参加費について

- ・大学生も対象とし参加費は 2,000 円とする（委託業者の申込みシステムに反映）
- ・4,000 円 ※但し、実行委員 0 円、大会協力員 0 円、事例発表者 0 円（2 名まで）
- ・申込み時点で障がい者対応が必要な場合は手話通訳等を配置

○開催要項 8 会場について

分科会	1	2	3	4	5
テーマ	社教委員	持続可能	家庭教育	共生社会	地域学校
会場	関内 ホール	開港記念 会館	情報文化 センター	技能文化 会館	県民 センター

- ・大会冊子に記載する会場案内図に、関内ホールの最寄り駅として「みなとみらい線馬車道駅」は記載せず、「JR 関内駅」「市営地下鉄ブルーライン関内駅」のみを記載する。道案内削減のため、みなとみらい線馬車道駅の記載はしない。

○開催要項 10 日程について

日	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6			
第1日目 11月20日 (木)			受付	歓迎セレモニー	開会行事	記念講演	休憩	シンポジウム	閉会行事		分科会準備		情報交換会
第2日目 11月21日 (金)		受付	分科会 (5会場)		<予定>			受付	開始		終了		
								第1日目	11:00	12:00~16:40			
								第2日目	9:30	10:00~12:30			

【11月20日(木)】

- ・受付 11:00、開会 12:00、閉会 16:40 とし、当初案よりも 30 分前倒しする。
- ・「アトラクション」の名称を「歓迎セレモニー」に変更する。
- ・開会行事にて、全社連会長（鈴木眞理元会長）の挨拶を入れる。
- ・県知事・教育長は欠席（業務重複）。副知事・教育局長となる予定。

【11月21日(金)】

- ・受付 9:30、開会 10:00、閉会 12:30
- ・分科会発表、1 事例 55 分（発表・質疑応答・協議含む）× 2、講評 15 分

○開催要項（案）の作成スケジュールについて（参考資料 1）

2 大会当日の役割分担について

報告事項

○大会 2 日間、「救護」担当のスタッフを配置する。

- ・対応は、（救急車を呼ぶ）控室等を待機場所。受付に「救護案内」の掲示。

○障がい者の対応について

- ・申込みの際、特別な対応（手話通訳や要約筆記等）の希望の有無を確認し、希望がない場合は、特に対応はしない。車いすについても同様だが対応は可能

○各市町村の分担人数の確認 → 次回、割振りをする。

- ・茅ヶ崎市は分科会発表のため、2 日目の役割は免除。

3 歓迎セレモニーの団体選定

報告事項

- 第1候補：県警吹奏楽団 第2候補：中国獅子舞
- 第3候補：DeNA チアダンススクール
- ⇒ 中国獅子舞（横浜中華學院校友會）から内諾

4 第1日目、全体会の司会者について

報告事項（参考資料2）

- いのうえ みわこ 氏（株）Joy Act Managemento 代表取締役
- ・TV、ラジオ、各種イベントで活躍（副会長から推薦）

5 情報交換会について

報告事項

- 会場：金香楼（キンコウロウ） 横浜中華街内
110名収容可
※3階メイン会場110名、4階別会場テーブル席40名
定員を超過した場合は実行委員を4階別会場での参加とする
- 日時：令和7年11月20日（木） 18時30分～20時30分
- 会費：6,000円（税込み）
- 備考：バリアフリー対応、喫煙所がある、エレベーター2台完備、酒の持込み可
備品が充実（マイク、受付台、プロジェクター、スクリーン、ホワイトボード
Wi-Fi環境、音響設備、延長コード、貸出テーブル）
- 150名を想定。会費6,000円（参加費4,000円）、会場は中華街。余興等なし。
（参考 H26 神奈川大会（立食）→約180名、R5 栃木大会（着席）→106名 6,500円）
- 受付、案内等の運営は、キャリア会の方々にお願いをする。
- 情報交換会への参加は任意。

6 その他

第 56 回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会開催概要（案）

1 大会スローガン

「社会教育で創る 育む つなげる 共生の未来へ」

2 研究主題

「すべてのひとが学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること」

3 趣 旨

人生 100 年時代といわれている中、一人一人のウェルビーイングを実現させていくためには、人生の各場面で生じる個人や社会の課題の解決につながる学習機会が保障され、学ぶことで充実感を得、継続的な学びにつなげられるよう、生涯の学び、活躍できる環境を整備していくことが求められています。一方、社会ではグローバル化や気候変動などの地球環境問題、少子化・人口減少、都市と地方の違いによる社会問題が取り沙汰されています。

そういった中、社会教育は地域課題の解決や生涯学習の推進など、多様な学びの場を提供しコミュニティの形成に努めてきました。今後、様々な人々が共に調和し、持続可能な社会を築いていくためには、改めて社会教育の役割が期待されます。

さて、開催地である神奈川県は、西部には箱根や丹沢の山々が連なり、南部は相模湾などの海に面しているなど、豊かな自然に恵まれています。また、歴史的、文化的な建造物や史跡、伝統工芸品などもあり日本の伝統的な文化と近代的な都市との融合が見られる地域でもあります。加えて本大会の会場である横浜は、日米修好通商条約の締結により 1859 年に開港してから 165 年を迎え、その間外国との貿易や文化交流の中心地としての重要な役割を果たしてきました。

本大会では、研究主題を「すべてのひとが学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること」とし、先の見えない社会と言われている今日の日本において、社会教育を通じて多様な人々が出会い、学び、そして新しいつながりを作り出し、より良い未来を創出していこうとの願いを込め、且つ、その中で私たち社会教育委員に何ができるのか、また何を担っていかなければいけないのかを、ここ開港の地「横浜」で考える 2 日間としたいと考えます。

4 主 催/共 催

一般社団法人全国社会教育委員連合、関東甲信越静社会教育委員連絡協議会、第 56 回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会、
神奈川県社会教育委員連絡協議会、神奈川県教育委員会、横浜市教育局

5 後 援（予定）

神奈川県、横浜市、神奈川県公民館連絡協議会、神奈川県地域婦人団体連絡協議会、
神奈川県社会教育協会、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）、

6 期 日

令和 7 年 11 月 20 日（木）・21 日（金）

7 参加者

- ・ 関東甲信越静各市町村社会教育委員及び事務局関係者
- ・ 同地区の社会教育関係団体会員、社会教育施設職員等社会教育関係者
- ・ 同地区の地域住民、NPO 法人、社会教育士、学校関係等生涯学習・社会教育に関心のある方（約 700 名を想定）

8 会 場

【1日目（全体会）】

関内ホール（大ホール） 横浜市中区住吉町 4-42-1

JR 関内駅北口徒歩 6 分、市営地下鉄ブルーライン関内駅 9 番出口徒歩 2 分

【2日目（分科会）】

関内ホール（小ホール） 横浜市中区住吉町 4-42-1

JR 関内駅北口徒歩 6 分、市営地下鉄ブルーライン関内駅 9 番出口徒歩 2 分

横浜市開港記念会館（講堂） 横浜市中区本町 1-6

みなとみらい線日本大通り駅 1 番出口徒歩 1 分、JR 関内駅南口徒歩 10 分

横浜情報文化センター（情文ホール） 横浜市中区日本大通 11

みなとみらい線日本大通り駅 3 番情文センター口直結、JR 関内駅南口徒歩 10 分

横浜市技能文化会館（ホール 1） 横浜市中区万代町 2-4-7

市営地下鉄ブルーライン伊勢崎長者町駅 1 番出口徒歩 3 分、JR 関内駅徒歩 5 分

かながわ県民センター（ホール）

JR・市営地下鉄・みなとみらい線横浜駅きた西口徒歩 5 分

9 参加費

4,000 円（大会資料代等） ※学生の参加費は 2,000 円

10 日 程

日	9	10	11	12		1	2	3	4	5	6
第1日目 11月20日 (木)			受付	歓迎 セレモニー	開 会 行 事	記 念 講 演	休 憩	シン ポ ジ ウ ム	閉 会 行 事	分 科 会 準 備	情 報 交 換 会
第2日目 11月21日 (金)		受付	分 科 会 (5会場)		<予定>			受付	開始	終了	
								第1日目 11:00	12:00～16:40		
								第2日目 9:30	10:00～12:30		

11 大会内容

第 1 日目【全体会】

12:00~12:20 歓迎セレモニー

中国獅子舞（仮称）

12:30~13:00 開会行事

・主催者あいさつ

第 56 回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員長

全国社会教育連委員会会長

・来賓祝辞

・歓迎のことば

・来賓紹介

13:10～14:10 記念講演

テーマ：「誰もが自分らしく生きることができる世の中を目指して」（仮）

認定 NPO 法人スローレーベル 栗栖 良依 氏

14:20～16:20 シンポジウム

テーマ：「すべてのひとが学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること」

<コーディネーター>

青山学院大学 コミュニティ人間科学部 教授 伊藤 真木子 氏

<シンポジスト>

東京都台東区教育委員会社会教育主事 阪本 陽子 氏

相模原市社会教育委員 渡邊 健一 氏

前厚木市立森の里公民館長 青木 信二 氏

16:20～16:40 閉会行事

- ・全員合唱
- ・次期関東甲信越静社会教育研究大会開催県あいさつ（群馬県）
- ・閉会のことば

第2日目【分科会】

9:30～10:00 分科会受付

10:00～12:30 分科会

	分科会名	研究テーマ	発表市町村（都県）
第1分科会	地域の教育力の再生と社会教育委員の役割	地域の教育力の低下がささやかれる中、地域の教育力を再生していかなければならない。その再生にむけた社会教育委員の役割について考える。	・長野県 ・海老名市（神奈川県）
第2分科会	次の世代につなぐ持続可能な社会	予測できない未来に向け、持続可能な社会の担い手を育成するために社会教育ができることを考える。	・栃木県 ・藤沢市（神奈川県）
第3分科会	家庭教育支援	子育て・家庭教育の大切さを認識し、地域・学校など社会全体で支えるような親や子どもを支援していく取組について考える。	・群馬県 ・未定（神奈川県）
第4分科会	共生社会の実現	年齢、性別、障がいの有無、文化的背景等に関わりなく、誰もが豊かな人生を享受することができる共生社会の実現にむけた社会教育の役割について考える。	・川崎市（神奈川県） ・茅ヶ崎市（神奈川県）
第5分科会	地域学校協働活動	地域学校協働活動において地域の資源を生かし、活動をとおして地域の活性化を図り、積極的な世代間交流につなげる取組について考える。	・新潟県 ・真鶴町（神奈川県）

開催要項（案）発送スケジュールおよび要項・冊子・報告書発行部数について（案）

1. スケジュールについて

R6 年度	R7 年度						
3/18 後	4月末	5/12	6月初旬	6月中旬	7月中旬	7月末～8月初旬	11/20・21
発表テーマ 概要原稿 作成依頼	提出締切	理事会	総務部会	発注	納品	・開催要項発送 ・大会申込開始	神奈川 大会
事務局⇒ 発表自治体	発表自治体 ⇒事務局	最終案 検討	最終案 検討	事務局 ⇒ 印刷業者	印刷業者 ⇒ 事務局	○印刷業者 ⇒県内・県外市町村 ⇒関係団体・大学等	

2. 発行部数について

【参考】開催要項、大会冊子、報告書の作成部数

西暦	年度	開催地	開催要項	冊子	報告書
2016	H26	神奈川	4000	1100	300
2022	R4	山梨	700	700	700
2023	R5	栃木	3500	1000	700
2024	R6	茨城（全国）	2000	1150	500
2025	R7	神奈川	希望数調査を実施 （3000 を想定）	申込数による （800 を想定）	申込数による （500 円で販売を想定）

いのうえみわこプロフィール

TVレポーター

- ・テレビ東京
- ・テレビ埼玉
- ・千葉テレビ

ラジオパーソナリティ

- ・FMカオン
- ・レディオ湘南

各種イベント司会

- ・藤沢市主催コンサート
 - ・藤沢市表彰式
 - ・つるの剛士さんトークイベント
 - ・NHK主催イベント
 - ・スポーツイベント
- などその他多数



障害者イベント2023年、2024年（ゲスト：内田篤人さん、大友愛さん、杉本美香さん）



2024年 ボクシングイベント
（ゲスト：具志堅用高さん他）

研究部会 報告

1 分科会前日準備について

報告事項

○県民センター 20 日（第 1 日目）AM に準備 （1 時間程を想定）

他 4 会場 20 日（第 1 日目）全体会終了後に移動して準備 （30 分程を想定）

○20 日（第 1 日目）の開会を 30 分前倒し、11:00 受付、12:00 開会とすることを総務部会へ提案する。

【総務部会へ提案】

⇒ 総務部会で、開会を 30 分前倒しすることを了承。

2 分科会における業務確認と分科会会場について

報告事項

(1) 業務分掌

①統括責任者【部会長】

研究部会長がこれにあたる。5 分科会を統括し、準備状況および分科会運営状況を確認する

②運営責任者【副部会長、立候補 4 名】（1 名×5 会場）

1 分科会を統括し、準備状況および分科会運営状況を確認する

③受付（2 名×5 会場）

会場で参加者の受付を行う

④会場内案内（2 名×5 会場）

会場内で参加者を案内する

⑤助言者接待（1 名×5 会場）

分科会での助言者を控え室および会場に案内する、登壇者の水を用意する；湯茶の接待をする

⑥発表者接待（1 名×5 会場）

分科会での事例発表者を控え室および会場に案内する、登壇者の水を用意する；湯茶の接待をする

⑦マイク（受付と兼務）

マイク準備、分科会での質疑応答時に参加者にマイクをタイミングよく手渡す

⑧その他

分科会会場の設営および現状復帰については、会場ごとの運営責任者の指示により、担当市町村担当が全員でこれにあたる

(2) 分科会会場および担当市町村

統括責任者・・・部会長

分科会	1	2	3	4	5
テーマ	社教委員	持続可能	家庭教育	共生社会	地域学校
会場	関内 ホール	開港記念 会館	情報文化 センター	技能文化 会館	県民 センター
担当	葉山・三浦	鎌倉・逗子	平塚・寒川	相模原・伊勢原	横須賀・二宮

- ・運営に携わる人数も報告。
- ・分科会発表が今後決まるため、担当や人数の変動の可能性あり。

3 控室・楽屋、必要な物品について

○情報文化センターは、設備上、控室1室のみの使用のため、講師、発表者対応に工夫を要する。

4 シンポジウムの内容、シンポジスト選定について

○シンポジウムのキーワード

- ・「すべてのひとの可能性を引き出す」
- ・「知恵と力を出し合い」
- ・「年齢に限らず、すべての年代が成長・発達できる」(若い方が対象になりやすい)

○シンポジストの選定

- ・シンポジストは、“すべてのひと”が対象になるため、幅広い人選が必要。

5 その他

- ・現時点における分科会発表県市町村を共有した。

第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会	第5分科会
社教委員	持続可能	家庭教育	共生社会	地域学校
長野県、海老名市	栃木県、藤沢市	群馬県、未定	川崎市、茅ヶ崎市	新潟県、真鶴町

- ・海老名市の懸念事項(発表内容が社会教育委員の活動の範疇を超えていないか)についての検討 → (事項を確認のうえ、)懸念にはあたらない。
- ・次回、会場下見を兼ねたいが、5～6月は繁忙期。事務局で日程調整する。

研究部会 提案事項

1 シンポジウム登壇者および分科会助言者について（案）

○シンポジスト

<テーマ>

「すべてのひとが学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること」

<コーディネーター>

青山学院大学 コミュニティ人間科学部 教授 伊藤 真木子 氏

<シンポジスト>

東京都台東区教育委員会社会教育主事 阪本 陽子 氏

相模原市社会教育委員 渡邊 健一 氏

前厚木市立森の里公民館館長 青木 信二 氏

○ 分科会助言者一覧

分科会	テーマ	所属	役職	氏名
1	地域の教育力の再生と社会教育委員の役割	聖学院大学	准教授	若原 幸範 氏
2	次の世代につなぐ持続可能な社会	青山学院大学	准教授	大木 真徳 氏
3	家庭教育支援	鎌倉女子大学	教授	久保内 加菜 氏
4	共生社会の実現	東京家政大学	教授	白木 賢信 氏
5	地域学校協働活動	国立教育政策研究所 初等中等教育研究部	部長	藤原 文雄 氏

2 分科会タイムスケジュールについて【次回、研究部会で検討】

9:30~10:00 分科会受付

10:00~12:20 分科会 ⇒ 【10:00~12:30 分科会】を提案

【例1】

10:00~10:05 開会・諸連絡(進行)(5)
 10:05~10:30 事例発表①(25)
 10:30~10:35 質疑応答①(5)
 10:35~10:50 協議①(15)
 10:50~11:00 全体共有①(10)
 11:00~11:15 休憩(15)
 11:15~11:40 事例発表②(25)
 11:40~11:45 質疑応答②(5)
 11:45~12:00 協議②(15)
 12:00~12:10 全体共有②(10)
 12:10~12:25 総評(15)
 ~12:30 閉会

【例2】

10:00~10:05 開会・諸連絡(進行)(5)
 10:05~10:30 事例発表①(25)
 10:30~10:35 質疑応答①(5)
 10:35~11:00 事例発表②(25)
 11:00~11:05 質疑応答②(5)
 11:05~11:20 休憩(15)
 11:20~11:45 協議(25)
 11:45~12:10 全体共有(25)
 12:10~12:25 総評(15)
 ~12:30 閉会

3 第3分科会(家庭教育支援)未決定について【資料2-3参照】

第3分科会（家庭教育支援）担当決定方法案

方 法 案	区 分
1 ・実行委員会で協議する。	委員会
2 ・事例発表を行う5市町村以外に現状を説明したうえで再度打診する。	再交渉
3 ・特徴のある市町村に個別に粘り強く交渉する。	
4 ・各市町村で再検討していただくよう、願います。	
5 ・家庭教育支援施策やマンパワーが充実している、また優れた事例のある市町村に 願います。	テーマ重視
6 ・「関ブロ分科会事例発表希望調査」（11/28関ブロ研究部会の資料8）で第1希望を「3：家庭教育支援」にしている市町で再度協議	
7 ・家庭教育支援について、先進的な取組を実施している市町村に依頼する。	
8 ・家庭教育支援の実践について実績のある市町村について、県が取りまとめる形で、各市町村より少しずつ情報を提供してもらい、負担が固まらないよう、複数市町村で対応する。	
9 ・神奈川の社会教育委員活動（県社教連会誌）で「社会教育委員の活動について」の活動のテーマが家庭教育支援に関わる内容の自治体に担当いただく。	
10 ・神奈川県取組発表	県
11 ・各市町村の取組を把握されている「県」が発表を担う	
12 ・令和5、6年度の地区研究会の会場市町村から選出。（発表の準備が整っているため）	選出方法
13 ・県社教連の副会長、幹事の役職ではない市町村から選出。（関ブロ大会当日に役割があり、分科会事例発表に出席できない。）	
14 ・4教育事務所管内から各1と政令指定都市・中核市（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市）から1つを選出することを基本形として、まだ出ていない中教育事務所管内で協議する。	
15 ・地区研のローテーションを入れ替えて対応する。	
16 ・R8年度の地区研担当市町村を1自治体（地区研の実施回数を1回）とし、地区研担当を外れた自治体に担当してもらう。	
17 ・神奈川県以外で発表が可能な都県があるようであれば、その都県に依頼する。	方式変更
18 ・有識者や文科省職員などを招き、今後の家庭教育の在り方や方向性などのミニ講演を行うなど、市町村の発表に捉われずに検討する。	
19 ・第3分科会をなくし、群馬県には他の分科会での発表をお願いする。（25分という発表の時間が長いので、それを短くすれば対応可能かと）	
20 ・第3分科会を第2分科会又は第4分科会に統合し、4つの分科会とする。（群馬県の御意向によっては、第3分科会は群馬県のみとする。）	
21 ・事例発表テーマを変えるなどの検討。	
22 ・事例発表形式ではなく、参加市町村が取組状況を話し合い、課題等を共有する場とする形式をとる。	
23 ・アトラクションの時間を増やすなどで調整する。	新規
24 ・外部講師に依頼の検討。	
25 ・補助金を活用している市町村等、先進的な取り組みを行っている市町村に依頼。	考慮点
26 ・実施する市町村に配慮をする。（発表したら他の担当を免除する等）	

運営部会 報告

1 会場下見について

【関内ホール】

○大ホール及び小ホール、舞台、ロビー、控室、楽屋、トイレ等、使用する箇所を確認。

○借用できる机や椅子等の内容を確認。

【開港記念会館】

○当日使用する講堂は、使用中であったため、入口やロビー、控室、会議室等を確認。

【情報文化センター】

○会議終了後、任意で1階ロビーを案内（当日会場のホールは下見していない）。

【技能文化会館、かながわ県民センター】

○事務局で画像等を撮り、共有することで下見の代替とする。

2 最寄り駅から会場への案内方法について

報告事項

○第1日目全体会【関内ホールのみ】

- ・原則、関連駅の改札口と会場近辺での案内を行う。途中経路では行わない。
- ・みなとみらい線「馬車道駅」からの案内はしない。
- ・JR線「関内駅」南口にも案内を配置する。

①関係駅の改札口

駅名	電車	配置場所	人数
関内	J R	南口	1
		南口近辺	1
		北口	1
	市営地下鉄	馬車道	1
		横浜スタジアム	1
	合計	5 改札	5 人

②会場近辺

会場名	場所	人数
関内ホール	正面近辺（関内駅側）	1
	正面近辺（馬車道駅側）	1
	裏面近辺	1
	合計	3 人

○第2日目分科会【5会場】

①関係駅の改札口

駅名	電車	配置場所	対応会場	駅出口	人数
関内	J R	南口	A B C D		1
		南口出口近辺			1
		北口			1
	市営地下鉄	馬車道	A B C D	A → 9 番	1
		横浜スタジアム		B C → 1 番 D → 2 番	1
伊勢佐木長者町	市営地下鉄	1 箇所	D (A B C)	D → 1 番 A B C 1 番	1
日本大通り	みなとみらい	1 箇所	B C (A D)	B → 2 番 C → 3 番 A D → 2 番	1
横浜	J R	北	※A B C Dへ 乗換案内の可能性	E → きた西口	1
		中央北		E → 西口	1
		中央南			1
		南			1
	みなとみらい	①		E → きた西口	1
		②			1
		③		E → 西口	1
	市営地下鉄	改札		E → 出口 8	1
		J R・相鉄方面			1
	合計	16 改札		合計	16 人

②会場近辺

No	会場名	場所	人数
A	関内ホール	正面（関内駅側）、正面（馬車道駅側）、裏面	3
B	開港記念会館	2 番出口近辺、正面近辺	2
C	情報文化センター	3 番出口（直結）近辺、正面近辺	2
D	技能文化会館	1 番出口近辺、正面近辺、関東学院大学近辺	3
E	県民センター	きた西口近辺（駅内）、きた西口近辺（外） 西口近辺（高島屋寄り）、西口近辺（きた西口寄り） 市営地下鉄出口 8 近辺、正門近辺×2 人	7
		合計	17 人

3 会場候補地について

○かながわ県民センターは、所在地が他の会場と離れている等の課題があるが、代替会場が見つからないため、分科会会場の1つとする。

※事務局で代替会場を模索し、近代文学館、横浜美術館、日本丸メモリアルパーク、赤い靴劇場、等、下見・検討をしたが、条件等を比べて却下した。

4 役割分担について

○第1日目・2日目における案内係について運営部会員の役割分担を報告した。

※分科会発表になる藤沢市、川崎市、真鶴町は2日目の分担は免除。

5 スタッフジャンパーについて

○スタッフジャンパーは作成せず、バンダナ、腕章、プレート等とする（横浜に見合うもので検討）

⇒腕章を使用する。

広報部会 報告

1 大会冊子の構成内容等について（担当：厚木市・愛川町）

（1）大会冊子の構成 【参考資料 1-1 参照】

報告事項

冊子の構成は「参考資料 1-1 冊子構成（案）」のとおりとする。

○平成 26 年度神奈川大会冊子と構成を変更した箇所

- ・全国社会教育委員連合会長の挨拶の頁を追加する。
- ・大会参加者名簿は掲載しない。

○その他、検討を行った箇所

- ・次期大会の開催紹介は掲載しない。

確認事項

中表紙は入れる方向とするが、実行委員会で不要との判断が出れば削除する。

（2）冊子の作成について 【参考資料 1-2 参照】

報告事項

冊子の執筆担当等は、「参考資料 1-2 冊子構成表（案）」のとおりとする。

- ・表紙及び裏表紙の写真は、厚木市、愛川町で選定し、デザインも構成する。

【参考資料 1-3（案 1）、参考資料 1-4（案 2）参照】

- ・原稿の校正は広報部会の全員で確認する。
- ・作成部数は 800 部（700 名参加の場合）を想定する。
- ・写真はコート紙とし、紙質のレベルは落とさない。

（3）冊子の作成スケジュールについて【参考資料 1-5 参照】

報告事項

- ・9 月末までに校了原稿を印刷業者に引き渡しを行い、11 月 1 日の納品とする。
- ・印刷業者との調整は事務局が行う。

2 大会報告書の構成内容等について（担当：大和市・海老名市） 【参考資料 2 参照】

報告事項

冊子の構成、執筆担当等について、平成 26 年度神奈川大会の大会報告書をもとに「参照資料 2 報告構成（案）」を作成した。

- ・分科会の記録及び報告書原稿の作成は、県教育事務所の社会教育主事に依頼する。
- ・開会セレモニー、記念講演、シンポジウムは広報部会で担当する。

テープ起こしは事務局でソフトウェアを使用して自動生成し、それを広報部会で修正して文章を作成する。

- ・報告書についても大和市、海老名市だけではなく、広報部会の全員で確認する。
- ・印刷業者との調整は事務局が行う。

- ・12月末までに報告書原稿を作成し、1月20日までに発表者に原稿内容の確認を行い、1月末までに校了原稿を印刷業者に引き渡して、2月中の納品とする。

3 広報の方法について（担当：綾瀬市） 【参考資料3参照】

報告事項

- ・チラシのみ作成し、ポスターは作成しない。
 - ・県内の社会教育科目を開設している大学及び、各市町村につながりのある県外の大学に開催要項とチラシを送付する。
 - ・学生参加費の引き下げを総務部会へ提案する。
- ⇒学生の参加費は、2,000円とすることを総務部会で決定

4 資料コーナーの企画・運営について（担当：座間市） 【参考資料4-1、4-2参照】

報告事項

- ・資料コーナーに使用できる長机は最大で8台
(長机の総数20台で、そのうち受付用に7台、舞台用に4台、講師関係団体用に1台を使用する見込み)
 - ・資料コーナーは2階に設置する。
 - ・各市町村が提供するパンフレット類は、大会冊子と一緒に袋に入れて配布する。
 - ・資料コーナーに備える資料は、県内から提供された資料に限定する。なお、余った資料は提供団体に持ち帰ってもらう。
 - ・大会当日までの資料の保管場所について、第1案は県庁（地下倉庫）、第2案は座間市とする。
- ⇒県庁（地下倉庫）が使用できる見通しである。

5 協賛金について

報告事項

- ・できる範囲で協賛金を集め、目標額は設定しない。
- ・募集期間は、4月～6月末とし、大会の品位を損ない社会的非難を招く恐れがあるものは掲載を認めない。
- ・平成26年度神奈川大会では、広告を掲載する場合と、企業や個人の名前を掲載する場合で、掲載スペースの大きさや料金が異なっていたが、令和7年度神奈川大会では区別せずに、一つの料金体系とする。
- ・料金体系は、A4判全面60,000円、1/2面30,000円、1/3面20,000円、1/4面15,000円、1/6面10,000円、1/12面5,000円とする。

確認事項

○協賛金募集の手続きについて 【参考資料5-1～5-9参照】

- ・県事務局は4月上旬に市町村に対し、協賛金募集のための必要書類を社会教育委

員に送付することを依頼する。

- ・社会教育委員は令和7年6月30日までに協賛いただく企業等から、「協賛広告等掲載申込書」と広告版下（再編集を要しない完全版下のPDFファイル）を受領する。
- ・市町村は社会教育委員が集めた申込みを取りまとめて、申込者名簿を作成し、「協賛広告等掲載申込書」と広告版下とともに、7月11日までに県事務局に送付する。
- ・県事務局は協賛企業等に請求書を送付し、口座振込を依頼する。振込手数料は協賛企業等の負担とする。なお、現金での受領は行わない。
- ・県事務局は入金確認ができれば、協賛企業等に領収書を送付する。
- ・県事務局は大会冊子が完成したら、協賛企業等に送付する。

【広報部会参考資料1-1】

第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会 冊子構成(案)

項目	内容	頁数	備考	
表紙	デザイン(カラー)	無	みなとみらい全景	
目次		1		
あいさつ	大会実行委員長あいさつ	1	委員長の写真	
	全国会長あいさつ	1	会長の写真	追加
大会開催要項	開催要項	3	抜粋	
会場案内	各会場の案内図	2		
大会日程・次第	全体会・分科会の内容等	3		
アトラクション	アトラクションの紹介	1	アトラクション写真	
記念講演	講演の趣旨と講師プロフィール、記録用紙	1	講師の写真 ※記録用紙は要検討	
シンポジウム	テーマ、出演者等 記録用紙	1	※記録用紙は要検討	
出演者紹介	基調提案者、シンポジスト・コーディネーターのプロフィール	2	出演者の写真	
中表紙			※要検討	
第1分科会 紹介	地域の教育力の再生と社会教育委員の役割・発表者等	1		
事例発表1	発表内容の要旨	2	アドバイザーの写真	
事例発表2		2		
第2分科会 紹介	次の世代につなぐ持続可能な社会・発表者等	1		
事例発表1	発表内容の要旨	2	アドバイザーの写真	
事例発表2		2		
第3分科会 紹介	家庭教育支援・発表者等	1		
事例発表1	発表内容の要旨	2	アドバイザーの写真	
事例発表2		2		
第4分科会 紹介	共生社会の実現・発表者等	1		
事例発表1	発表内容の要旨	2	アドバイザーの写真	
事例発表2		2		
第5分科会 紹介	地域学校協働活動・発表者等	1		
事例発表1	発表内容の要旨	2	アドバイザーの写真	
事例発表2		2		
中表紙			※要検討	
次期大会の紹介	群馬大会の内容紹介	4		削除
大会役員名簿	名簿一覧	1	※前の方に出すか	
大会実行委員・大会協力員等の名簿	名簿一覧	2	※前の方に出すか	
大会参加者名簿	都県別参加者一覧と参加者名簿	20		削除
大会開催都県と今後の開催予定	開催地一覧	1		
中表紙			※要検討	
協賛団体・企業・個人名	協賛広告・名称		※協賛広告の応募があった場合	
奥付	発行者	無		
裏表紙	デザイン(カラー)	無	横浜各所	

* 人物写真をどこまで入れるか検討が必要

【広報部会参考資料1-2】

第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会 冊子構成表(案)

項目	担当		作成内容	頁数	外部依頼内容		表示 頁始	表示 頁終	累計 頁数
表紙(ウラ面白紙)	広報部会	冊子作成班	デザイン(カラー)	無	県観光部署から写真借用		無	無	無
目次	広報部会	冊子作成班		1			1	1	1
実行委員長あいさつ	総務部会	事務局	あいさつ文	1	文章依頼	写真	2	2	2
全国会長あいさつ	総務部会	事務局	あいさつ文	1	文章依頼	写真	3	3	3
大会開催要項	総務部会	事務局	開催要項	3			4	6	6
会場案内	運営部会	事務局	施設紹介・地図	2	施設管理者・宿泊業者等よりデータ取得		7	8	8
大会日程・次第	総務部会	事務局	日程・次第	3			9	11	11
アトラクション紹介	総務部会	事務局	内容紹介	1	文章依頼	写真	12	12	12
記念講演 栗栖良依	総務部会	事務局	趣旨・講師紹介	1	文章依頼	写真	13	13	13
作成中	研究部会	事務局	テーマ・趣旨	1	文章依頼	写真	14	14	14
コーディネーター	事務局担当		プロフィール 紹介のみ	2		写真	15	16	16
パネリスト1						写真			
パネリスト2						写真			
パネリスト3						写真			
			記録用紙	※要検討	1				
2部			色紙中表紙	※要検討	1				
第1分科会 紹介	研究部会		趣旨内容	1			17	17	17
事例発表1	事例発表者		発表内容	2	文章依頼	写真	18	19	19
事例発表2	事例発表者		発表内容	2	文章依頼	写真	20	21	21
			記録用紙	※要検討	1				
第2分科会 紹介	研究部会		趣旨内容	1			22	22	22
事例発表1	事例発表者		発表内容	2	文章依頼	写真	23	24	24
事例発表2	事例発表者		発表内容	2	文章依頼	写真	25	26	26
			記録用紙	※要検討	1				
第3分科会 紹介	研究部会		趣旨内容	1			27	27	27
事例発表1	事例発表者		発表内容	2	文章依頼	写真	28	29	29
事例発表2	事例発表者		発表内容	2	文章依頼	写真	30	31	31
			記録用紙	※要検討	1				
第4分科会 紹介	研究部会		趣旨内容	1			32	32	32
事例発表1	事例発表者		発表内容	2	文章依頼	写真	33	34	34
事例発表2	事例発表者		発表内容	2	文章依頼	写真	35	36	36
			記録用紙	※要検討	1				
第5分科会 紹介	研究部会		趣旨内容	1			37	37	37
事例発表1	事例発表者		発表内容	2	文章依頼	写真	38	39	39
事例発表2	事例発表者		発表内容	2	文章依頼	写真	40	41	41
			記録用紙	※要検討	1				
3部			色紙中表紙	※要検討	1		無	無	
次年度開催県紹介	次年度開催県事務局		趣旨内容	4	文書依頼				
大会役員名簿	総務部会	事務局	名簿一覧	1			42	42	42
大会実行委員会委員名簿	総務部会	事務局	名簿一覧	2			43	44	44
大会参加者名簿	総務部会	事務局	都県別名簿一覧	34	宿泊業者よりデータで受領				
関東甲信越大会一覧		事務局	開催地一覧	1			45	45	45
4部			色紙中表紙	※要検討	1		無	無	
協賛団体・個人・企業名	広報部会	協賛金班	広告版下で受領		1頁6万円 半頁3万円				
裏表紙裏付	広報部会	冊子作成班	発行者印刷	-			無	無	無
裏表紙	広報部会	冊子作成班	デザイン(カラー)	1	県観光部署から写真借用		無	無	無

冊子作成班協議のよる冊子構成案

2025/2/12

1. フォント及びフォントサイズ未定
2. すべての文書依頼はデータで提出していただくこと
3. 表紙の素案用写真依頼→候補素案2案→1案に絞り込み
4. 印刷部数800部
5. 協賛団体・個人・企業名のページは申込数により変動

出席者約700人見込み

第56回関東甲信越静 社会教育研究大会神奈川大会



社会教育で創る 育む つなげる

共生の未来へ

期 日 令和7年11月20日(木)・21日(金)

全体会 関内ホール

分科会 関内ホール 横浜市開港記念会館

横浜情報文化センター 横浜市技能文化会館

かながわ県民センター



【主催／共催】

第 56 回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会

神奈川県社会教育委員連絡協議会

関東甲信越静社会教育委員連絡協議会

一般社団法人全国社会教育委員連合

神奈川県教育委員会 横浜市教育委員会

第56回関東甲信越静 社会教育研究大会神奈川大会



社会教育で創る 育む つなげる

共生の未来へ

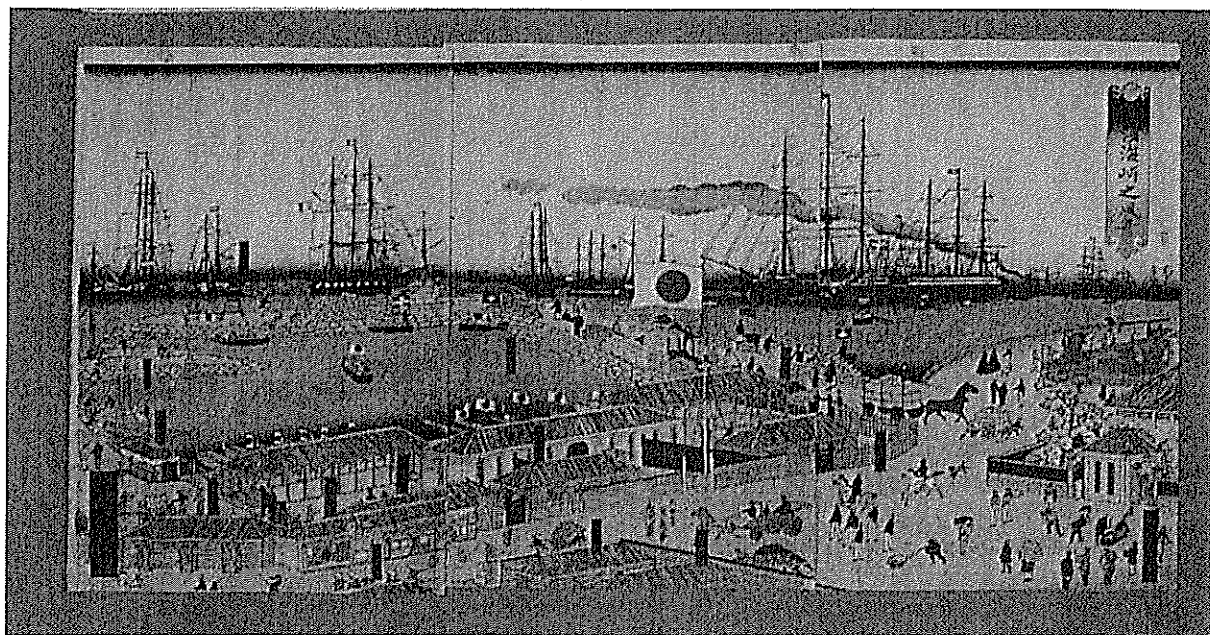
期 日 令和7年11月20日(木)・21日(金)

全体会 関内ホール

分科会 関内ホール 横浜市開港記念会館

横浜情報文化センター 横浜市技能文化会館

かながわ県民センター



【主催／共催】

第 56 回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会
神奈川県社会教育委員連絡協議会

関東甲信越静社会教育委員連絡協議会

一般社団法人全国社会教育委員連合

神奈川県教育委員会 横浜市教育委員会

【広報部会参考資料 1. - 5】

第56回関東甲信越静社会教育研究大会 <大会冊子作成工程表(案)>

[illegible]

大会報告書の作成について

第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会 報告書構成(案)

項目	内容	項数	担当	備考
表紙	カラー	1	広報部会	
目次		1	広報部会	
大会開催要項	開催要項	4	広報部会	原稿は県事務局が所持
大会の様子（カラー写真）	歓迎セレモニー	2	広報部会	
	・ 歓迎の歌、アトラクション	(1)		4～6枚
	・ 主催者あいさつ、来賓あいさつ等	(1)		4枚
	記念講演、シンポジウム	1		6～8枚
	閉会セレモニー	1		5～7枚
	第1、2分科会	3		8～10枚
	第3、4分科会			8～10枚
	第5分科会			8～10枚
受付風景、資料コーナー、情報交換会等	1	8～10枚		
主催者あいさつ	大会実行委員長あいさつ	1	広報部会	写真あり（テープ起県事務局）
お祝いのことば	神奈川県知事	1	広報部会	写真あり（テープ起県事務局）
歓迎のことば	横浜市長	1	広報部会	写真あり（テープ起県事務局）
記念講演	栗栖氏の講演要旨	14	県事務局	2段組み 写真あり
シンポジウム	シンポジウムの要旨	20	県事務局	3段組み 写真あり
閉会セレモニー	合唱、次期開催県あいさつ、閉会のことば	2	広報部会	写真あり
中表紙		1	広報部会	
第1分科会	表紙（テーマ、発表者、アドバイザー等）	1	広報部会	
	発表要旨、協議等の概要、まとめ	8		
第2分科会	表紙（テーマ、発表者、アドバイザー等）	1	広報部会	
	発表要旨、協議等の概要、まとめ	8		
第3分科会	表紙（テーマ、発表者、アドバイザー等）	1	広報部会	
	発表要旨、協議等の概要、まとめ	8		
第4分科会	表紙（テーマ、発表者、アドバイザー等）	1	広報部会	
	発表要旨、協議等の概要、まとめ	8		
第5分科会	表紙（テーマ、発表者、アドバイザー等）	1	広報部会	
	発表要旨、協議等の概要、まとめ	8		
大会を終えて	大会実行委員長のことば	1	県事務局	
中表紙		1		
参加者数	都県別参加者数	1	県事務局	参加者集計表のみ
大会役員	名簿	1	県事務局	大会冊子と同じ
大会実行委員等	名簿	6	県事務局	大会冊子と同じ
奥付けページ	発行者	1	県事務局	
裏表紙	カラー（写真orロゴ等）	1	広報部会	

「社会教育で
創る 育む つなげる 共生の未来へ」

第56回関東甲信越静 社会教育研究大会 神奈川大会

令和 7 年 11 月 20 日 (木) ・ 21 日 (金)

県キャラ

県名物

研究主題

「すべてのひとが
学び続けられる社会をつくるために
社会教育ができること」

会場

関内ホール ほか



主催／共催

一般社団法人全国社会教育委員連合、関東甲信越静社会教育委員連絡協議会、第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会、神奈川県社会教育委員連絡協議会、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会

後援

神奈川県、横浜市、神奈川県公民館連絡協議会、神奈川県地域婦人団体連絡協議会、神奈川県社会教育協会、神奈川新聞社、t v k(テレビ神奈川)

第56回 関東甲信越静社会教育研究大会 神奈川大会

開催趣旨

作成中

参加費（大会資料代） 一般 4,000円、大学生 2,000円

当日日程

〈1日目〉全体会

- 11:00 受付 (60分)
- 12:00 歓迎セレモニー (20分)
- 12:30 開催行事 (30分)
- 13:10 記念講演 (60分)
- 14:20 シンポジウム (120分)
- 16:20 閉会行事 (20分)

〈2日目〉分科会

- 9:30 受付 (30分)
- 10:00 分科会 (80分)
 - 第1分科会 地域の教育力の再生と社会教育委員の役割
 - 第2分科会 次の世代につなぐ持続可能な社会
 - 第3分科会 家庭教育支援
 - 第4分科会 共生社会の実現
 - 第5分科会 地域学校協働活動

会場

【1日目（全体会）】

- ・ 関内ホール（大ホール） 横浜市中区住吉町4-42-1
JR関内駅北口徒歩6分、市営地下鉄ブルーライン関内駅9番出口徒歩2分

【2日目（分科会）】

- ・ 関内ホール（小ホール） 横浜市中区住吉町4-42-1
JR関内駅北口徒歩6分、市営地下鉄ブルーライン関内駅9番出口徒歩2分
- ・ 横浜市開港記念会館（講堂） 横浜市中区本町1-6
みなとみらい線日本大通り駅1番出口徒歩1分、JR関内駅南口徒歩10分
- ・ 横浜情報文化センター（情文ホール） 横浜市中区日本大通11
みなとみらい線日本大通り駅3番情文センター口直結、JR関内駅南口徒歩10分
- ・ 横浜市技能文化会館（ホール1） 横浜市中区万代町2-4-7
市営地下鉄ブルーライン伊勢崎長者町駅1番出口徒歩3分、JR関内駅徒歩5分
- ・ かながわ県民センター（ホール）
JR・市営地下鉄・みなとみらい線横浜駅きた西口徒歩5分

地図

お問い合わせ

神奈川県教育委員会教育局生涯学習部生涯学習課内

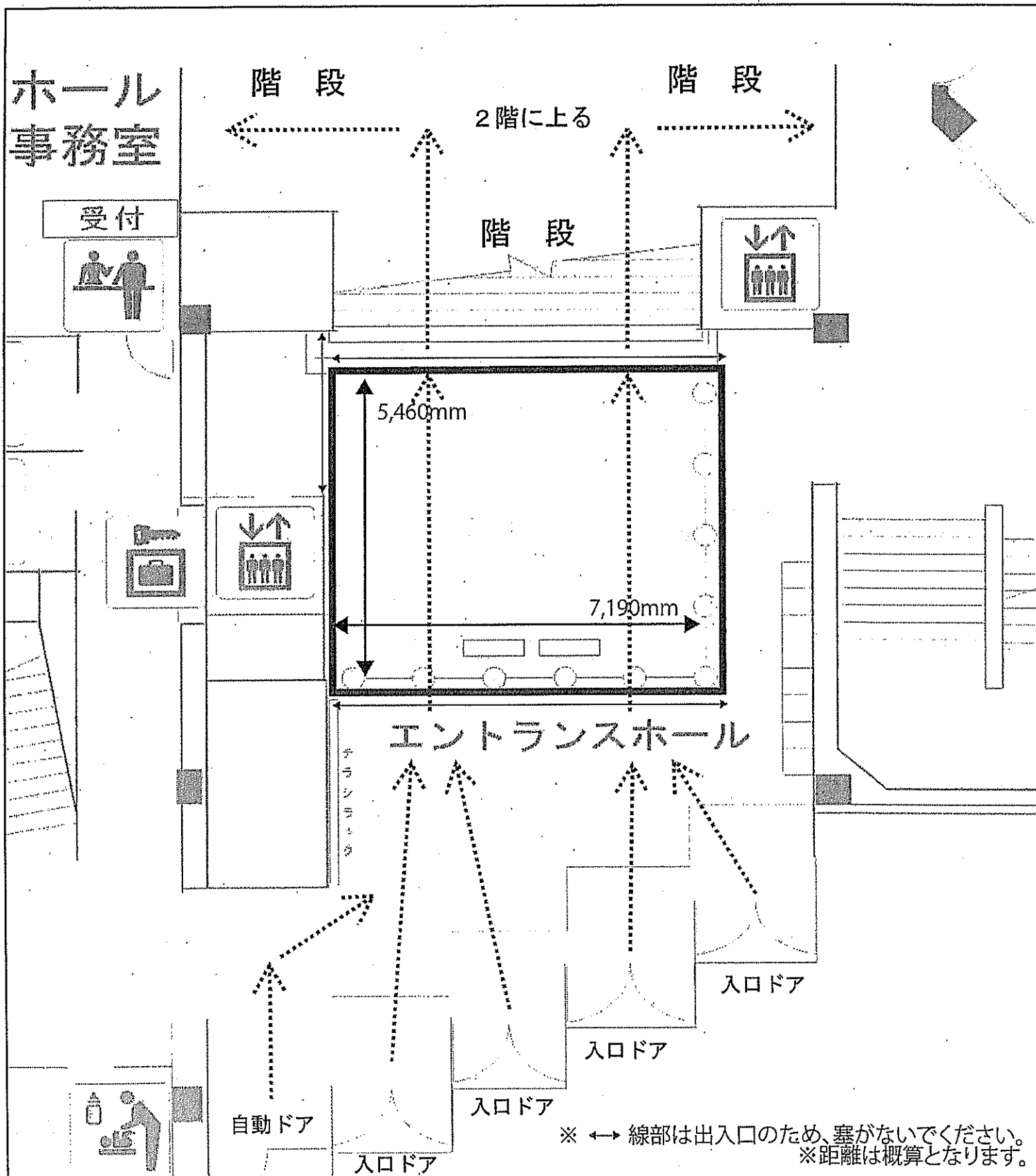
神奈川県社会教育委員連絡協議会事務局

電話 045-210-8344

電子メール syakyou@pref.kanagawa.lg.jp

関内ホール 展示レイアウト参考図 大ホール 1階ロビー

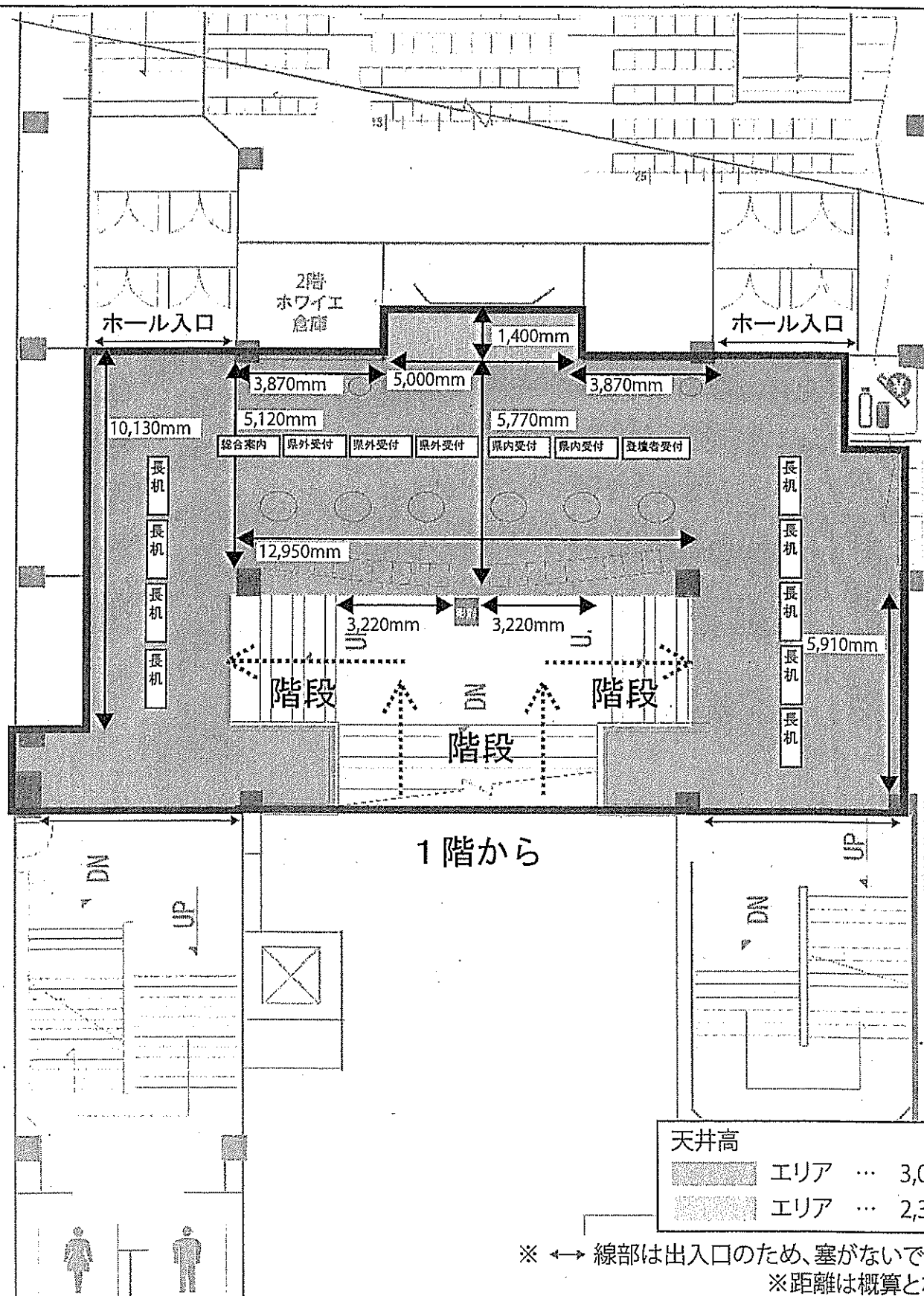
この参考図をもとに「展示レイアウト図」に展示設備を図示してください。
 展示可能な領域は赤線枠内となります。



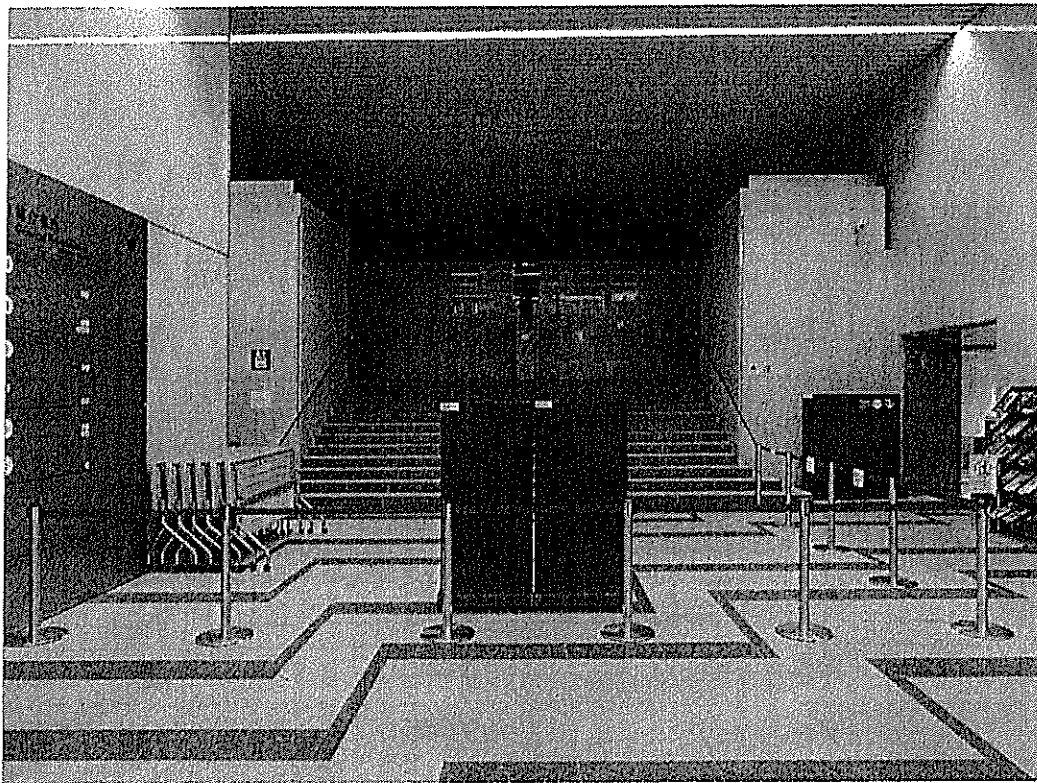
関内ホール 展示レイアウト参考図

大ホール 2階ロビー

この参考図をもとに「展示レイアウト図」に展示設備を図示してください。
 展示可能な領域は赤線枠内となります。



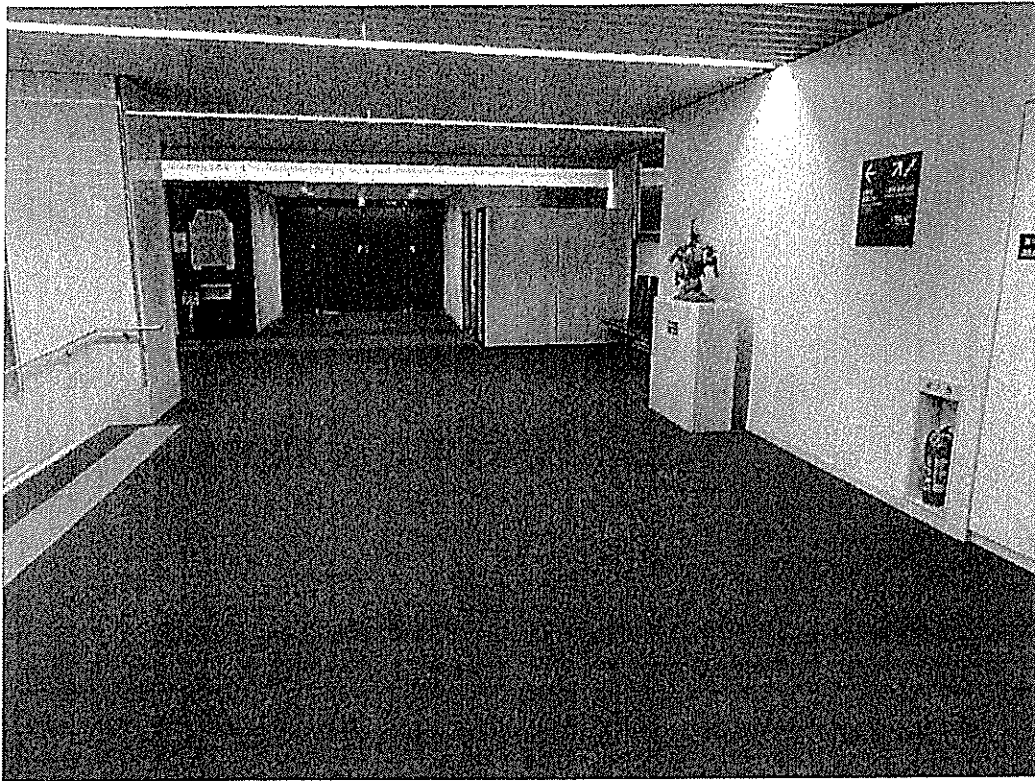
① 1階エントランス（正面から撮影）



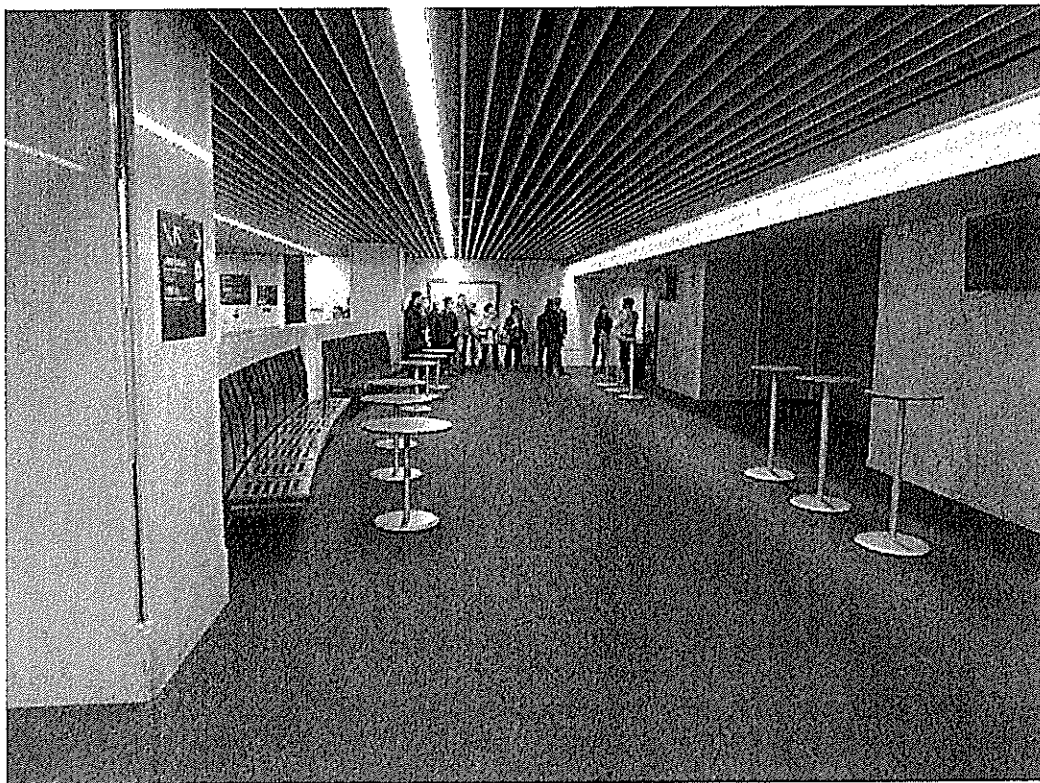
② 1階エントランス（側面から撮影）



③ 1階から2階へ階段を上がる（正面に見えるのがホール入り口）



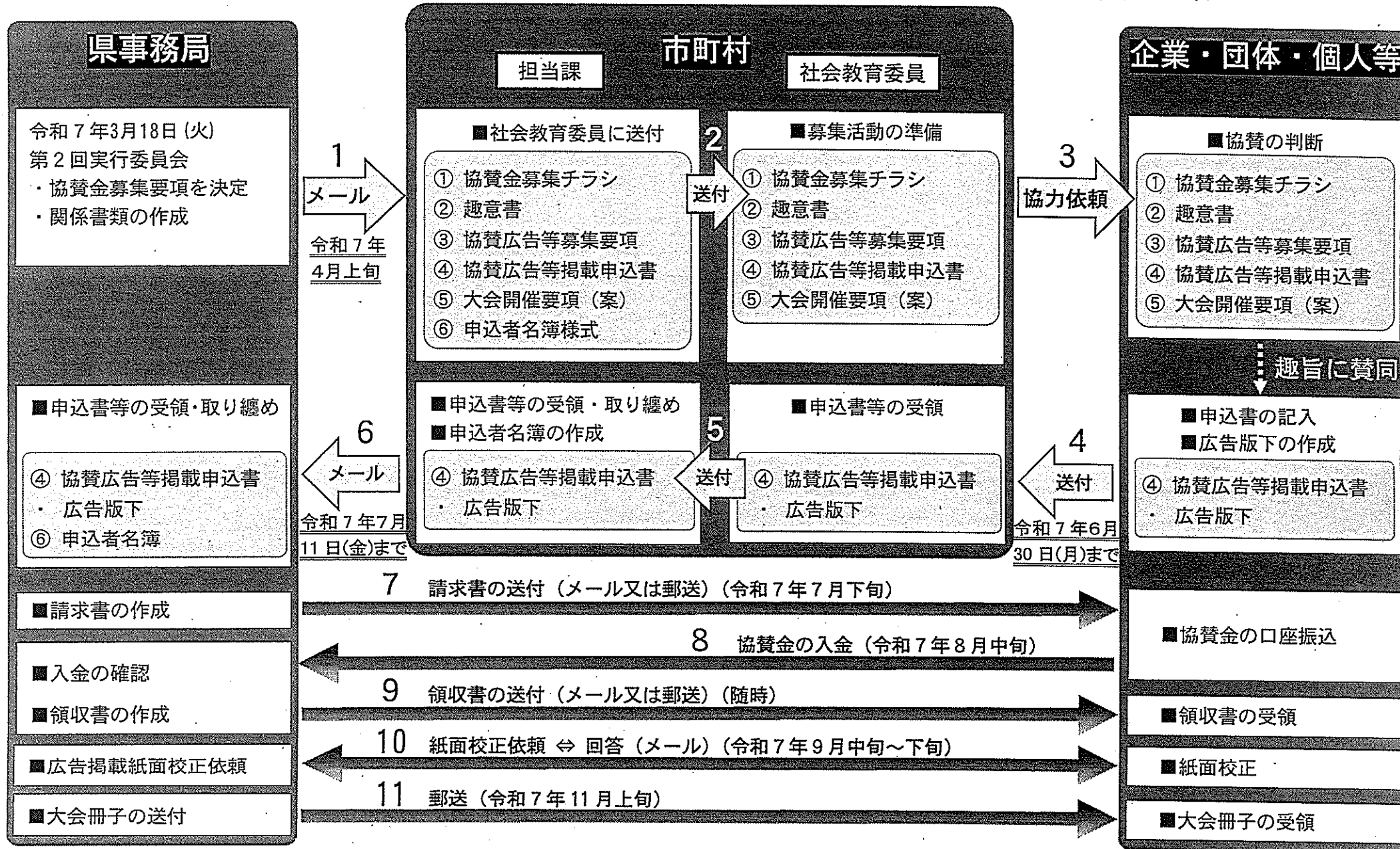
④ 2階 ホールロビー



協賛金募集活動について

- 1 募集の流れ
別紙「協賛広告等募集の流れ・スケジュール」のとおり
- 2 募集期間
令和7年6月30日まで
- 3 募集主体
募集活動は各市町村の社会教育委員が主体となり、各市町村の社会教育委員会・会議事務局等の協力を得ながら、無理のない範囲内で行う。
- 4 募集対象
原則として、神奈川県内に事業所や営業所、店舗等を有する団体、企業及び居住する個人等を対象に募集を行う。また、神奈川県外から協賛の申し入れがある場合についても受け入れを可とする。
- 5 募集方法
 - (1) 団体・企業等への依頼方法
募集にあたる社会教育委員は、次の資料等を団体・企業・個人等に示し、社会教育委員の役割や活動内容、本大会の趣旨等を説明するとともに、協賛広告等は「大会冊子」(参加者概ね700人程度に当日配付)に掲載される旨を説明し協力を依頼する。
 - ①協賛金募集チラシ
 - ②趣意書
 - ③協賛広告等募集要項
 - ④協賛広告等掲載申込書
 - ⑤大会開催要項(案)
 - (2) 申込書の取りまとめ
各市町村事務局は、社会教育委員から団体・企業・個人等の「協賛広告等掲載申込書」を取りまとめた上、「申込者名簿」を作成し「協賛広告等掲載申込書」と「広告版下」を併せて県事務局に提出する。
 - (3) その他
募集に際しては、必要に応じて次のような広告等掲載の効果も説明する。
 - 社会教育に理解のある企業・団体等ということを参加者に印象づけ、PRできる。
 - イベントや行事、催しなどを紹介することにより、集客効果が期待できる。
- 6 協賛金の取扱い
申込みのあった団体・企業・個人等に県事務局から請求書を送付し、神奈川県社会教育委員連絡協議会長名義の銀行口座へ振り込みを依頼する。(振込手数料は振込者負担でお願いします。)
 県事務局は神奈川県社会教育委員連絡協議会長名義の領収書を各団体・企業等に送付する。
- 7 その他
県事務局は、完成した大会冊子を各団体・企業等に送付する。

第 56 回 関東甲信越静社会教育研究大会 神奈川大会 協賛広告等募集の流れ・スケジュール



第 56 回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会

大会の成功に向けて 皆様方のご支援をお願いします

* * * * *

大会に協賛いただける団体・企業・個人
を募集しています。

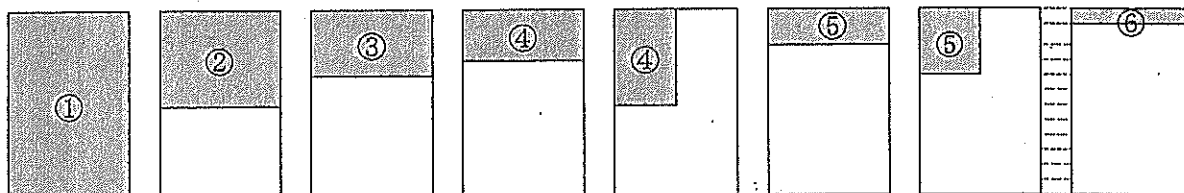
協賛いただいた場合、大会当日に参加者等に配付する冊子に、「協賛広告」又は「協賛者の御芳名」を掲載いたします。

1 協賛広告を掲載する場合

(1) 広告のサイズ及び協賛金額

- | | | | |
|-----------------|----------|------------------|----------|
| ① A 4判の 1 ページ | 60,000 円 | ② A 4判の 1/2 ページ | 30,000 円 |
| ③ A 4判の 1/3 ページ | 20,000 円 | ④ A 4判の 1/4 ページ | 15,000 円 |
| ⑤ A 4判の 1/6 ページ | 10,000 円 | ⑥ A 4判の 1/12 ページ | 5,000 円 |

(掲載広告の掲載面積)



(2) 広告の原稿について

- ア 原稿は、電子データ (PDFファイル) で提出してください。
- イ 文字や図、ロゴ、写真等を掲載することができますが、白黒印刷となりますのでご注意ください。

《掲載参考例》

地域と共に、未来を拓く

皆様の〇〇と〇〇を応援



ロゴ
マーク

株式会社〇〇〇〇〇

TEL.



写真

2 団体・企業・個人の御芳名だけを掲載する場合

(1) 掲載内容

市町村名と団体・企業・個人の御芳名を、A4判の1/12ページ（縦20^{ミリ}、横170^{ミリ} 文字1行）の大きさで掲載します。

(2) 協賛金額

5,000 円

《掲載参考例》

市町村名	協賛団体・企業・個人名
〇〇市	〇〇市商工会議所
〇〇町	神 奈 川 一 郎

3 申込方法・協賛金の納入方法等について

(1) 別紙「協賛広告等掲載申込書」に必要事項をご記入いただき、広告原稿（再編集を要しない完全版下のPDFファイル）を添えて、令和7年6月30日（月）までに、お申込みください。

(2) お申込みいただいた内容に基づいて、協賛金の請求書を別途送付させていただきますので、請求書記載の銀行口座への振込みをお願いします。

なお、振込手数料は誠に恐れ入りますが、協賛者のご負担でお願いいたします。

(3) 協賛広告等を掲載した大会冊子は、完成後、各協賛者の皆様方に1冊ずつお届けいたします。

問合せ先

第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会事務局

〒231-8588 横浜市中区日本大通1

神奈川県教育委員会教育局生涯学習生涯学習課内

担当 藤原、村松

電話 045-210-8347(直通) ファクシミリ 045-210-8939

第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会

趣 意 書

拝啓 皆様におかれましては、ますます御健勝のことと心からお喜び申し上げます。また、日頃から、神奈川県社会教育委員連絡協議会の活動に対しましては、格別の御理解と御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、人生100年時代といわれている中、一人一人のウェルビーイングを実現させていくためには、人生の各場面で生じる個人や社会の課題の解決につながる学習機会が保障され、学ぶことで充実感を得、継続的な学びにつなげられるよう、生涯の学び、活躍できる環境を整備していくことが求められています。一方、社会ではグローバル化や気候変動などの地球環境問題、少子化・人口減少、都市と地方の違いによる社会問題が取り沙汰されています。

そういった中、社会教育は地域課題の解決や生涯学習の推進など、多様な学びの場を提供しコミュニティの形成に努めてきました。今後、様々な人々が共に調和し、持続可能な社会を築いていくためには、改めて社会教育の役割が期待されます。

そこで、本協議会では、「すべてのひとが学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること」を研究主題に、関東甲信越静地区の社会教育委員などが一堂に集まり、各地域における社会教育活動の実践や研究成果などをもとに、社会教育委員の役割や今後の社会教育のあり方などについて協議する、第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会を令和7年11月20日（木）、21日（金）に開催します。現在、実行委員会を組織し、大会開催に向けて準備を進めているところでございます。

つきましては、神奈川県での開催にふさわしい充実した研究大会にするため、開催の趣旨に御賛同いただき、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

令和7年4月

神奈川県社会教育委員連絡協議会長
第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会委員長 小池 茂子

協賛広告等募集要項

1 趣旨

関東甲信越静岡ブロックの都県、政令指定都市及び市区町村の社会教育委員、事務局関係者、社会教育関係者及び、生涯学習・社会教育に関心のある者が一堂に集まる「第56回関東甲信越静岡社会教育研究大会神奈川大会」を、令和7年11月20日・21日に開催するにあたり、神奈川県での開催にふさわしい充実した研究大会にするため、趣旨に賛同していただける団体、企業及び個人から協賛広告等を募集する。

2 協賛広告等の掲載媒体

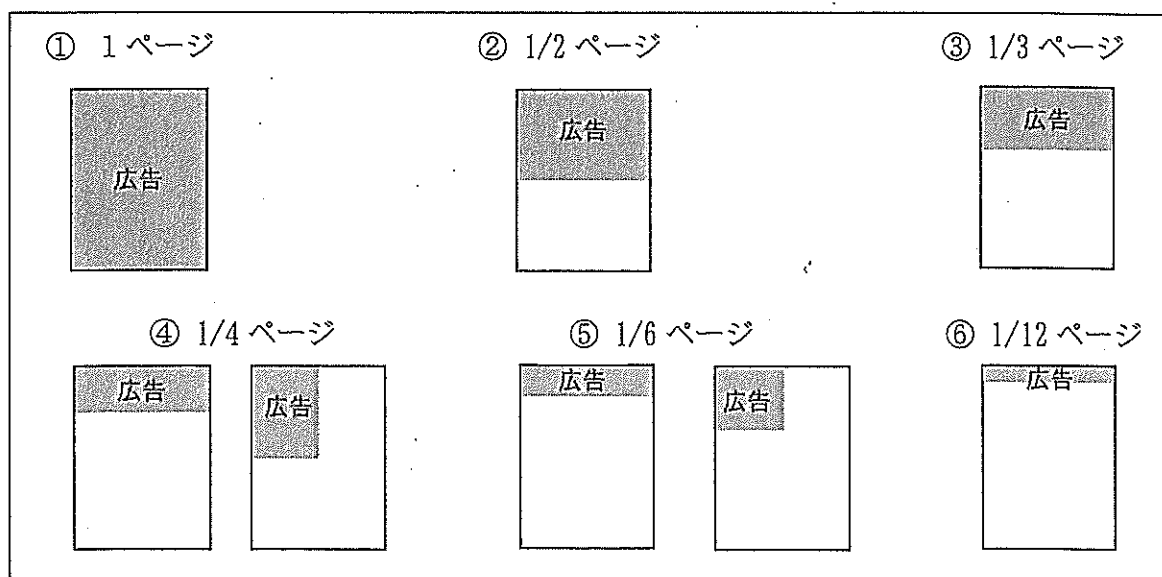
- (1) 大会当日、参加者に配布する大会冊子（A4判 白黒印刷）に掲載する。
 (2) 大会冊子は、700冊配布する。（予定）

3 募集する協賛広告等の規格・金額等

- (1) 協賛広告等の規格・金額は下表のとおりとする。

	規 格	金 額
①	A4判の1ページ分 (縦 250 ^{mm} × 横 170 ^{mm})	60,000円
②	A4判の2分の1ページ分 (縦 125 ^{mm} × 横 170 ^{mm})	30,000円
③	A4判の3分の1ページ分 (縦 82 ^{mm} × 横 170 ^{mm})	20,000円
④	A4判の4分の1ページ分 (縦 62 ^{mm} × 横 170 ^{mm}) (縦 124 ^{mm} × 横 85 ^{mm})	15,000円
⑤	A4判の6分の1ページ分 (縦 41 ^{mm} × 横 170 ^{mm}) (縦 82 ^{mm} × 横 85 ^{mm})	10,000円
⑥	A4判の12分の1ページ分 (縦 20 ^{mm} × 横 170 ^{mm})	5,000円

協賛広告等の掲載イメージ



- (2) 印刷： 白黒印刷
- (3) 掲載内容： 名称・連絡先、広告文、図、ロゴ、写真等
- (4) 掲載先： 大会冊子の巻末「協賛団体・企業・個人等」の紙面に掲載

4 協賛広告等の掲載の基準

- (1) 商品等のPRを行う場合は、性能、品質、条件、価格等の表示を最小限に止め、比較広告は行わないこととする。
- (2) 次のいずれかに該当する場合は、広告を掲載することができない。
 - ア 政治性、宗教性のあるもの
 - イ 公序良俗に反する、又はその恐れのあるもの
 - ウ 法令等に違反する恐れのあるもの
 - エ 意見広告
 - オ その他、広告として掲載することが適当でないと第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会（以下、「本会」という）が認めるもの

5 申込方法

別紙様式1「協賛広告等掲載申込書」に必要事項を記入の上、広告原稿（再編集を要しない完全版下のPDFファイル）を添えて、関係市町村の生涯学習・社会教育担当課を通じ、本会の事務局に申し込む。

6 募集期間

令和7年6月30日（月）まで

7 協賛金の納付方法

本会が指定する期日までに、別添様式2「請求書」記載の指定銀行口座へ振込みを行う。

※請求書は、協賛広告等掲載申込書を本会の事務局が受領した後、別途送付する。

※振込手数料は申込人の負担とする。

8 校正及び大会冊子の頒布

大会冊子の製本前に、協賛者に広告掲載紙面の校正を依頼する。

大会冊子は製本完了後、協賛者に1冊頒布する。

9 その他

この募集要項に定めのあるもののほか、募集に関し必要な事項は、本会委員長が別に定める。

附 則

この要項は、令和7年3月〇日から施行する。

協賛広告等掲載申込書

令和7年 月 日

神奈川県社会教育委員連絡協議会長

第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会委員長 小池 茂子 様

第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会の趣旨に賛同し、次のとおり大会冊子に協賛広告等の掲載を申し込みます。

お申込者名（団体名・企業名・個人名）			
御住所		〒	
御担当者	所属・職名・氏名		
	連絡先 電話・FAX・メール	電話： 電子メール： (校正依頼に使用)	FAX：

申 込 内 容

I 協賛金額 (広告サイズ) ご協賛いただく金額を選択してください。 (□をクリックすると☑が付きます。)	☐ 60,000円 (1ページ 全面) ☐ 30,000円 (1/2ページ) ☐ 20,000円 (1/3ページ) ☐ 15,000円 (1/4ページ) ☐ 10,000円 (1/6ページ) ☐ 5,000円 (1/12ページ)				
II 大会冊子 掲載内容 大会冊子に掲載する 内容を選択してください。 (□をクリックすると ☑が付きます。)	☐ 協賛広告を掲載する ※選択したサイズの広告を、次ページ以降に張り付けるとともに、広告版下のPDFファイルを電子メール、CD等で提出してください。 ☐ 協賛広告は掲載せず、協賛者の御芳名（市町村名＋名称）だけを掲載する ※掲載する市町村名と団体・企業・個人の名称を記入してください。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">(市町村名)</td> <td style="width: 50%;">(団体・企業・個人の名称)</td> </tr> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td></td> </tr> </table>	(市町村名)	(団体・企業・個人の名称)		
(市町村名)	(団体・企業・個人の名称)				
III 請求書・領収書 の送付方法	☐ 電子メール ☐ 郵送 ※希望する送付方法をどちらか選択してください。				

問い合わせ先：第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会事務局

神奈川県教育委員会生涯学習課

電話045-210-8347

A 4 版 1 ページ全面広告の掲載を申し込む場合

枠の大きさに合わせた広告を張り付けてください。

A 4 版 2 分の 1 ページ広告の掲載を申し込む場合

枠の大きさに合わせた広告を張り付けてください。

A 4 版 3 分の 1 ページ広告の掲載を申し込む場合

枠の大きさに合わせた広告を張り付けてください。

A 4 版 4 分の 1 ページ (横長) 広告の掲載を申し込む場合

枠の大きさに合わせた広告を張り付けてください。

A 4 版 4 分の 1 ページ (縦長) 広告の掲載を申し込む場合

枠の大きさに合わせた広告を張り付けて
ください。

(別紙様式 1)

A 4 版 6 分の 1 ページ (横長) 広告の掲載を申し込む場合

枠の大きさに合わせた広告を張り付けてください。

A 4 版 6 分の 1 ページ (縦長) 広告の掲載を申し込む場合

枠の大きさに合わせた広告を張り付けて
ください。

(別紙様式 1)

A 4 版 12 分の 1 ページ (横長) 広告の掲載を申し込む場合

枠の大きさに合わせた広告を張り付けてください。

協賛広告等掲載申込書【記入例】

令和7年6月1日

神奈川県社会教育委員連絡協議会長

第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会委員長 小池 茂子 様

第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会の趣旨に賛同し、次のとおり大会冊子に協賛広告等の掲載を申し込みます。

お申込者名（団体名・企業名・個人名）		社会教育株式会社
ご住所		〒123-4567 △△市××区〇〇12-34
ご担当者	所属・職名・氏名	営業部 主任 神奈川 花子
	連絡先 電話・FAX・メール	電話：123（45）6789 FAX：987（65）4321 電子メール：abc@defg.ne.jp (校正依頼に使用)

申 込 内 容

I 協賛金額 (広告サイズ) ご協賛いただく金額を選択してください。 (□をクリックすると☑が付きます。)	☐ 60,000円 (1ページ全面) ☐ 30,000円 (1/2ページ) ☐ 20,000円 (1/3ページ) ☐ 15,000円 (1/4ページ) ☐ 10,000円 (1/6ページ) ☒ 5,000円 (1/12ページ)				
II 大会冊子 掲載内容 大会冊子に掲載する 内容を選択してください。 (□をクリックすると☑が付きます。)	☐ 大会冊子に協賛広告を掲載する ※選択したサイズの広告を、次ページ以降に張り付けるとともに、広告版下のPDFファイルを電子メール、CD等で提出してください。 ☒ 大会冊子に協賛広告は掲載せず、協賛者の御芳名（市町村名＋名称）だけを掲載する ※掲載する市町村名と団体・企業・個人の名称を記入してください。 <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 30%;">(市町村名)</td> <td>(団体・企業・個人の名称)</td> </tr> <tr> <td>〇〇市</td> <td>〇×株式会社</td> </tr> </table>	(市町村名)	(団体・企業・個人の名称)	〇〇市	〇×株式会社
(市町村名)	(団体・企業・個人の名称)				
〇〇市	〇×株式会社				
III 請求書・領収書 の送付方法	☒ 電子メール ☐ 郵送 ※希望する送付方法をどちらか選択してください。				

問い合わせ先：第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会事務局

神奈川県教育委員会生涯学習課

電話045-210-8347

御 請 求 書

令和7年 月 日

様

神奈川県社会教育委員連絡協議会長
 第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会委員長
 小池 茂子

このたびは広告等の掲載に御協賛をいただき、誠にありがとうございます。
 次のとおり御請求申し上げますので、よろしくお願いいたします。

ご請求金額 金 円也

但し、第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会広告等掲載協賛金として

1 振込先：

下記の銀行口座にお振込みくださいますようお願いいたします。

なお、振込手数料は誠に恐れ入りますが、協賛者の御負担でお願いいたします。

金融機関名：	横浜銀行
支店名：	県庁支店
口座種別：	普通
口座番号：	〇〇〇〇〇〇〇〇
口座名義：	

2 お振込期限： 令和7年8月〇日

2 問合せ先： 神奈川県社会教育委員連絡協議会事務局

〒231-8588

神奈川県横浜市中区日本大通1

神奈川県教育委員会教育局生涯学習部生涯学習課内

担 当： 藤原、村松

電 話： (045) 210-8347 (直通)

電子メール： syakyou@pref.kanagawa.lg.jp

令和 7 年 度 第 56 回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会 開 催 要 項 (案)

1. 大会スローガン

「社会教育で創る 育む つなげる 共生の未来へ」

2. 研究主題 (テーマ)

「すべてのひとが学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること」

3. 趣 旨

人生 100 年時代といわれている中、一人一人のウェルビーイングを実現させていくためには、人生の各場面で生じる個人や社会の課題の解決につながる学習機会が保障され、学ぶことで充実感を得、継続的な学びにつなげられるよう、生涯の学び、活躍できる環境を整備していくことが求められています。一方、社会ではグローバル化や気候変動などの地球環境問題、少子化・人口減少、都市と地方の違いによる社会問題が取り沙汰されています。

そういった中、社会教育は地域課題の解決や生涯学習の推進など、多様な学びの場を提供しコミュニティの形成に努めてきました。今後、様々な人々が共に調和し、持続可能な社会を築いていくためには、改めて社会教育の役割が期待されます。

さて、開催地である神奈川県は、西部には箱根や丹沢の山々が連なり、南部は相模湾などの海に面しているなど、豊かな自然に恵まれています。また、歴史的、文化的な建造物や史跡、伝統工芸品などもあり日本の伝統的な文化と近代的な都市との融合が見られる地域でもあります。加えて本大会の会場である横浜は、日米修好通商条約の締結により 1859 年に開港してから 165 年を迎え、その間外国との貿易や文化交流の中心地としての重要な役割を果たしてきました。

本大会では、研究主題を「すべてのひとが学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること」とし、先の見えない社会と言われている今日の日本において、社会教育を通じて多様な人々が出会い、学び、そして新しいつながりを作り出し、より良い未来を創出していこうとの願いを込め、且つ、その中で私たち社会教育委員に何ができるのか、また何を担っていかなければいけないのかを、ここ開港の地「横浜」で考える 2 日間としたいと考えます。

4. 主催／共催

一般社団法人全国社会教育委員連合、関東甲信越静社会教育委員連絡協議会、
第 56 回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会、
神奈川県社会教育委員連絡協議会、神奈川県教育委員会、横浜市教育局委員会

5. 後 援（予定）

神奈川県、横浜市、神奈川県公民館連絡協議会、
神奈川県地域婦人団体連絡協議会、神奈川県社会教育協会、神奈川新聞社、
t v k (テレビ神奈川)

6. 期 日 令和 7 年 11 月 20 日（木）、21 日（金）

7. 参加者（700 人程度）

- ・ 関東甲信越静各市町村社会教育委員及び事務局関係者
- ・ 同地区の社会教育関係団体会員、社会教育施設職員等社会教育関係者
- ・ 同地区の地域住民、NPO 法人、社会教育士、学校関係等、生涯学習・社会教育に関心のある方

8. 会 場

【1 日目（全体会）】

- ・ 関内ホール（大ホール） 横浜市中区住吉町 4-42-1
JR 関内駅北口 徒歩 6 分
市営地下鉄ブルーライン関内駅 9 番出口 徒歩 2 分

【2 日目（分科会）】

- ・ 関内ホール（小ホール） 横浜市中区住吉町 4-42-1
JR 関内駅北口 徒歩 6 分
市営地下鉄ブルーライン関内駅 9 番出口 徒歩 2 分
- ・ 横浜市開港記念会館（講堂） 横浜市中区本町 1-6
みなとみらい線日本大通り駅 1 番出口 徒歩 1 分
JR 関内駅南口 徒歩 10 分
- ・ 横浜情報文化センター（情文ホール） 横浜市中区日本大通 11
みなとみらい線日本大通り駅 3 番情文センター口直結
JR 関内駅南口 徒歩 10 分
- ・ 横浜市技能文化会館（ホール 1） 横浜市中区万代町 2-4-7
市営地下鉄ブルーライン伊勢崎長者町駅 1 番出口 徒歩 3 分
JR 関内駅 徒歩 5 分
- ・ かながわ県民センター（ホール） 横浜市神奈川区鶴屋町 2 丁目 24-2
JR・市営地下鉄・みなとみらい線横浜駅きた西口 徒歩 5 分

9. 参加費

4,000 円（大会資料代等） ※学生の参加費は 2,000 円

10. 日程

日	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
第1日目 11月20日 (木)			受付	歓迎セレモニー	開会行事	記念講演	シンポジウム	閉会行事	分科会準備	情報交換会
第2日目 11月21日 (金)		受付	分科会 (5会場)	<予定> 受付 開始 終了 第1日目 11:00 12:00～16:40 第2日目 9:30 10:00～12:30						

11. 大会内容

第1日目【全体会】

12:00～12:20 歓迎セレモニー
中国獅子舞（仮称）

12:30～13:00 開会行事

- ・主催者あいさつ
第56回関東甲信越社会教育研究大会神奈川大会実行委員長
全国社会教育連合会長
- ・来賓祝辞
- ・歓迎のことば
- ・来賓紹介

13:10～14:10 記念講演
テーマ：「誰もが自分らしく生きることができる世の中を目指して」（仮）
認定 NPO 法人スローレーベル 栗栖 良依 氏

14:20～16:20 シンポジウム
テーマ：「すべてのひとが学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること」
<コーディネーター>
青山学院大学 コミュニティ人間科学部 教授
伊藤 真木子 氏
<シンポジスト>
東京都台東区教育委員会社会教育主事 阪本 陽子 氏
相模原市社会教育委員 渡邊 健一 氏
前厚木市立森の里公民館長 青木 信二 氏

16:20～16:40 閉会行事

- ・全員合唱
- ・次期関東甲信越社会教育研究大会開催県あいさつ（群馬県）
- ・閉会のことば

第2日目【分科会】

9:30～10:00 分科会受付

10:00～12:30 分科会

	分科会名	研究テーマ	発表市町村（都県）
第1分科会	地域の教育力の再生と社会教育委員の役割	地域の教育力の低下がささやかれる中、地域の教育力を再生していかなければならない。その再生にむけた社会教育委員の役割について考える。	・長野県 ・海老名市（神奈川県）
第2分科会	次の世代につなぐ持続可能な社会	予測できない未来に向け、持続可能な社会の担い手を育成するために社会教育ができることを考える。	・栃木県 ・藤沢市（神奈川県）
第3分科会	家庭教育支援	子育て・家庭教育の大切さを認識し、地域・学校など社会全体で支えるような親や子どもを支援していく取組について考える。	・群馬県 ・ <u>未定</u> （神奈川県）
第4分科会	共生社会の実現	年齢、性別、障がいの有無、文化的背景等に関わりなく、誰もが豊かな人生を享受することができる共生社会の実現にむけた社会教育の役割について考える。	・川崎市（神奈川県） ・茅ヶ崎市（神奈川県）
第5分科会	地域学校協働活動	地域学校協働活動において地域の資源を生かし、活動をとおして地域の活性化を図り、積極的な世代間交流につなげる取組について考える。	・新潟県 ・真鶴町（神奈川県）

12. その他

大会冊子について

- ①配布予定部数・・・700部
- ②規格・・・A4版（概ね50ページ）、表紙（裏表紙）のみカラー印刷
- ③内容・・・記念講演、シンポジウム、分科会等の資料のほか、協賛者の広告、氏名等を掲載
- ④配布先・・・大会当日に参加者全員に配布

第56回関東甲信越静岡社会教育研究大会神奈川大会
申込者名簿

令和7年 月 日現在
市町村名()

No.	団体・企業名又は個人名	郵送番号	住 所	申込担当者			連絡先			広告等の規格	金額	掲載内容	請求書等の 送付方法	備 考
				所属	職名	氏名	電話	FAX	メール					
記載例	社会教育株式会社	123-4567	△△市××区〇〇12-34	営業部	主任	神奈川 花子	123(45)6789	987(65)4321	abc@defg.ne.jp	全面(縦250×横170)	60,000	協賛広告	電子メール	
1											0			
2											0			
3											0			
4											0			
5											0			
計											合計金額	0		

(注1) 「掲載内容」欄は、冊子に協賛広告を掲載する場合は「協賛広告」を、広告は掲載せず、協賛者の名前だけを掲載する場合は、「名称のみ」を選択してください。
(注2) 記入欄の行が不足する場合は、適時追加してください。

市町村担当者連絡先	

令和6年度 神奈川県社会教育委員連絡協議会特別会計 決算書(案)

〔収支の部〕

収入	3,132,757 円
支出	310,511 円
残額	2,822,246 円 (次年度へ繰越し)

〔収入の部〕 (単位 円)

科 目	予算額 (a)	決算額(見込) (b)	増 減 (b-a)	備 考
関プロ大会積立金	150,000	150,000	0	一般会計から繰入 R4から150,000円に減額 平成27～令和7年度積立
関プロ大会特別積立金	0	0	0	
雑収入	24	1,382	1,358	預金利息8/17 (193) 2/22 (1,189)
前年度繰越金	2,981,375	2,981,375	0	
合 計	3,131,399	3,132,757	1,358	

〔支出の部〕 (単位 円)

科 目	予算額 (a)	決算額 (b)	増 減 (b-a)	備 考
実行委員会旅費	100,000	96,261	△ 3,739	第1回46,261円、 第2回50,000円
連絡調整会議旅費	50,000	6,000	△ 44,000	第1回 書面開催、 第2回 6,000円
各部会旅費	150,000	143,039	△ 6,961	第2回各部会合計63,771円 第3回各部会合計79,268円 (内会議室1,200円)
関プロ茨城大会	115,000	65,211	△ 49,789	宿泊費・参加費(35,940)、 交通費(23,605)、 著作権(1,831)、PR会議(3,835)
支出合計	415,000	310,511	△ 104,489	
次年度繰越金	2,716,399	2,822,246	105,847	
合 計	3,131,399	3,132,757	1,358	

2025/3/17

(収支の部) 収入 5,875,846

支出 5,875,846

特別会計 予算書(案)

(収入の部)

(単位 円)

科 目	R 7年度(a) 予算案	R 6年度(b) 決算見込	R 6～R 7 (a + b)	当初予算 (2年分) (c)	増減 (a+b-c)	備 考
関プロ大会積立金	150,000	150,000	300,000	150,000 150,000	0	一般会計から繰入 R6:150,000円 R7:150,000円 平成27～令和7年度積立 R4年度から50,000円減額
関プロ大会特別積立金	0	0	0	0	0	令和4年度のみ積立
雑収入	3,600	1,382	4,982	36	4,946	R7. 8月預金残高見込 300万円(利子3,000円) R8. 2月預金残高見込 60万円(利子600円)
参加費	2,800,000	0	2,800,000	2,800,000	0	4,000円×700人
補助金	100,000	0	100,000	100,000	0	全社連から
協賛金	0	0	0	0	0	協賛金
前年度繰越金	2,822,246	2,981,375	2,981,375	2,981,375	0	
合 計	5,875,846	3,132,757	6,186,357	6,181,411	4,946	

特別会計 (支出の部)

2025/3/17

(単位 円)

科目	R7年度 予算案 (a)	R6年度 実績見込 (b)	R6~R7 予測 (a+b)	当初予算 (2年分) (c)	増減 (a+b-c)	備 考
1. 報償費	500,000	0	500,000	400,000	100,000	
講演講師謝金	150,000	0	150,000	100,000	50,000	栗栖芳依さん
シンポジウム	80,000	0	80,000	80,000	0	コーディネーター(1)、シンポジスト(3)
アトラクション	35,000	0	35,000	35,000	0	中国獅子舞
総合同会	20,000	0	20,000	20,000	0	
分科会	200,000	0	200,000	150,000	50,000	助言者(5名)+県外発表者(当初は助言者のみ)
救護謝礼	15,000	0	15,000	15,000	0	
2. 旅費	909,000	310,511	1,219,511	924,000	295,511	
実行委員会旅費	100,000	96,261	196,261	100,000	96,261	実行委員会4回分(行政職員) R6:R5年度開催第1回実行委員会 R6年度第2回(2025.03予定) R7:2025年10月予定 2026年3月予定(職員分のみ)
連絡調整会議旅費	50,000	6,000	56,000	50,000	6,000	年2回 会長と各部会の部会長、副部会長 R6:第1回書面開催、第2回開催 R7:3回実施予定 ※
各部会旅費	150,000	143,039	293,039	150,000	143,039	各部会旅費(理事+行政職員) R6:各2回 R7:各2回(広報部会は3回) ※
関ブロ茨城大会(R6) 関ブロ岩手大会(R7)	0	65,211	65,211	115,000	-49,789	関ブロ大会参加費 R6:副会長3名分 (会長は一般会計より支出) 参加費5,000円×3 交通費8,000円×3 宿泊費11,700円×3(上限) その他4,000円×3 R7:無し ※
分科会発表者旅費	70,000	0	70,000	20,000	50,000	本県+他県(当初予算は本県のみ)
運営スタッフ旅費	489,000	0	489,000	489,000	0	実行委員・大会協力員
シンポジウム打ち合わせ	50,000	0	50,000	0	50,000	追加
3. 消耗品費	283,000	0	283,000	443,000	-160,000	
会場設営	33,000	0	33,000	25,000	8,000	演壇用生花
ジャンパー	0	0	0	100,000	-100,000	屋外者用
名札	0	0	0	8,000	-8,000	スタッフ用
腕章	60,000	0	60,000	0	60,000	スタッフ用 カラー無地 ④400円×150
大会用手提袋	80,000	0	80,000	200,000	-120,000	1000→800枚 ④100×800
事務用品等	110,000	0	110,000	110,000	0	
3. 食糧費	5,000	0	5,000	5,000	0	
4. 印刷製本費	1,000,000	0	1,000,000	890,000	110,000	
開催要領	0	0	0	120,000	-120,000	4000部 委託料に含む
大会冊子	400,000	0	400,000	550,000	-150,000	1100部(④320×1100)(税抜)
大会報告書	600,000	0	600,000	220,000	380,000	220部→300部 ④1800×300(税抜)
5. 役務費	220,000	0	220,000	170,000	50,000	
手話通訳・要約速記料	120,000	0	120,000	120,000	0	
看板製作費	100,000	0	100,000	50,000	50,000	大会看板66,000円、立看板16,500円
6. 通信運搬費	73,000	0	73,000	85,000	-12,000	
開催要領送付代	0	0	0	15,000	-15,000	委託料に含む
大会資料・報告書送付	43,000	0	43,000	40,000	3,000	レターパックライト④430×100
振込手数料	30,000	0	30,000	30,000	0	
7. 委託料	1,238,000	0	1,238,000	850,000	388,000	参加取りまとめ業務等
8. 使用料及び賃借料	451,350	0	451,350	652,130	-200,780	
会場使用料	317,150	0	317,150	517,930	-200,780	
会場設備使用料	110,000	0	110,000	110,000	0	
関ブロ理事会会場	24,200	0	24,200	24,200	0	弘道会ビル使用料2回分
9. 負担金(茨城大会参加料)	0	0	0	25,000	-25,000	
10. R6次年度繰越金・R7予備費	1,196,496	2,822,246	1,196,496	1,737,281	-540,785	
合 計	5,875,846	3,132,757	6,186,357	6,181,411	4,946	

※振込手数料含む

		11月20日(木)			11月21日(木)			大会運営に係る人数	
		社教委員	行政職員	合計	社教委員	行政職員	合計	11/20	11/21
1	横浜市	0	2	2	0	2	2	3	2
2	川崎市		3	3		3	3	3	発表者
3	相模原市	6	3	9	10	3	13	4	4
4	横須賀市	8	1	9	7	1	8	4	4
5	鎌倉市	3	1	4	6	1	7	4	4
6	藤沢市	3	2	5	0	0	0	2	発表者
7	茅ヶ崎市	7	2	9	8	2	10	3	発表者
8	逗子市	6	2	8	6	2	8	3	3
9	三浦市	3	1	4	3	1	4	3	3
10	葉山町	3	1	4	3	1	4	4	4
11	寒川町	8	1	9	8	1	9	3	3
12	厚木市	3	2	5	3	2	5	2	3
13	大和市	11	1	12	11	1	12	2	2
14	海老名市	2	1	3	2	1	3	2	発表者
15	座間市	8	3	11	8	3	11	2	3
16	綾瀬市	10	3	13	10	3	13	2	-
17	愛川町			0			0	2	-
18	清川村	4	1	5	4	1	5	2	2
19	平塚市	11	2	13	11	2	13	4	4
20	秦野市	13	2	15	13	2	15	3	2
21	伊勢原市	7	2	9	4	2	6	3	3
22	大磯町	3	1	4	2	1	3	3	2
23	二宮町			0			0	3	3
24	南足柄市	3	1	4	3	1	4	2	2
25	中井町	2	1	3	2	1	3	3	3
26	大井町	2	1	3	2	1	3	2~3	2~3
27	松田町	6	1	7	6	1	7	2~3	2~3
28	山北町	1	1	2	1	1	2	2	2
29	開成町			0			0	2	2
30	小田原市	2	2	4	2	2	4	2~3	2~3
31	箱根町	5	2	7	5	2	7	2	2
32	真鶴町			0			0	4	発表者
33	湯河原町	6	1	7	4	1	5	3	3
		146	47	193	144	45	189	93	74
	キャリア会			37					
	湘南三浦教育事務所								
	県央教育事務所								
	中教育事務所								
	足柄上指導課								
	県西教育事務所								

大会運営に係る人数について

・参加費は無料。交通費支給。

・社教委員、行政職員の区別はない。

関ブロ 分科会における発表者への謝金等について

【県内発表者】（川崎市、藤沢市、茅ヶ崎市、海老名市、真鶴町）

西暦	年度	開催地	謝金	旅費	参加費
2016	H26	神奈川	無	2名まで支払う	2名まで徴収しない
2023	R5	栃木	無	無	2名まで徴収しない
2024	R6	茨城（全国）	6000	1名分支払う	1名まで徴収しない
2025	R7	神奈川	無	2名まで支払う	2名まで徴収しない

【県外発表者】（長野県、栃木県、群馬県、新潟県）

西暦	年度	開催地	謝金	旅費	参加費
2022	R4	山梨	10000	1名分を支払う	2名まで徴収しない
2023	R5	栃木	10000	1名分を支払う	2名まで徴収しない
2024	R6	茨城（全国）	10000	1名分を支払う	2名まで徴収しない
2025	R7	神奈川	10000	1名分を支払う	2名まで徴収しない

第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会にかかわる
各種会議への旅費支給及び参加費徴収について

【資料5-5】

区分		神奈川大会にかかわる旅費の支給・大会費徴収 ("○"=支給、"×"=支給しない、"- "=該当しない)							参加費徴収 (4,000円)	
		実 行 委員会	連絡調整 会議	総務部会	研究部会	運営部会	広報部会	大会 1日目		大会 2日目
全国社会教育委員連合		-	-	-	-	-	-	×	×	無
都 県 市 (県 外)	大会役員	-	-	-	-	-	-	×	×	4,000円
	分科会 事例発表者	-	-	-	-	-	-	-	○ (1名まで)	無 (2名まで)
神 奈 川 県	会長	○	○	○	○	-	-	○	○	無
	副会長	○	○	○	○	○	○	○	○	無
	実行委員 (理事)	○	○	○	○	○	○	○	○	無
	実行委員 (市町村職員)	○	-	○	○	○	○	⊖	⊖	無
	分科会 事例発表者 (2名まで)	-	-	-	-	-	-	-	○	無
	大会協力員 (実行委員以外の市町村社 会教育委員等)	-	-	-	-	-	-	⊖	⊖	無
	キャリア会 (大会運営に携わる方)	-	-	-	-	-	-	×	×	無
	教育事務所職員 (事務局)	-	-	×	×	×	×	×	×	無
	県生涯学習課職員 (事務局)	×	×	×	×	×	×	×	×	無
上記以外の大会参加者 (社会教育委員、都県市町村 職員、社会教育関係者等)		-	-	-	-	-	-	×	×	4,000円

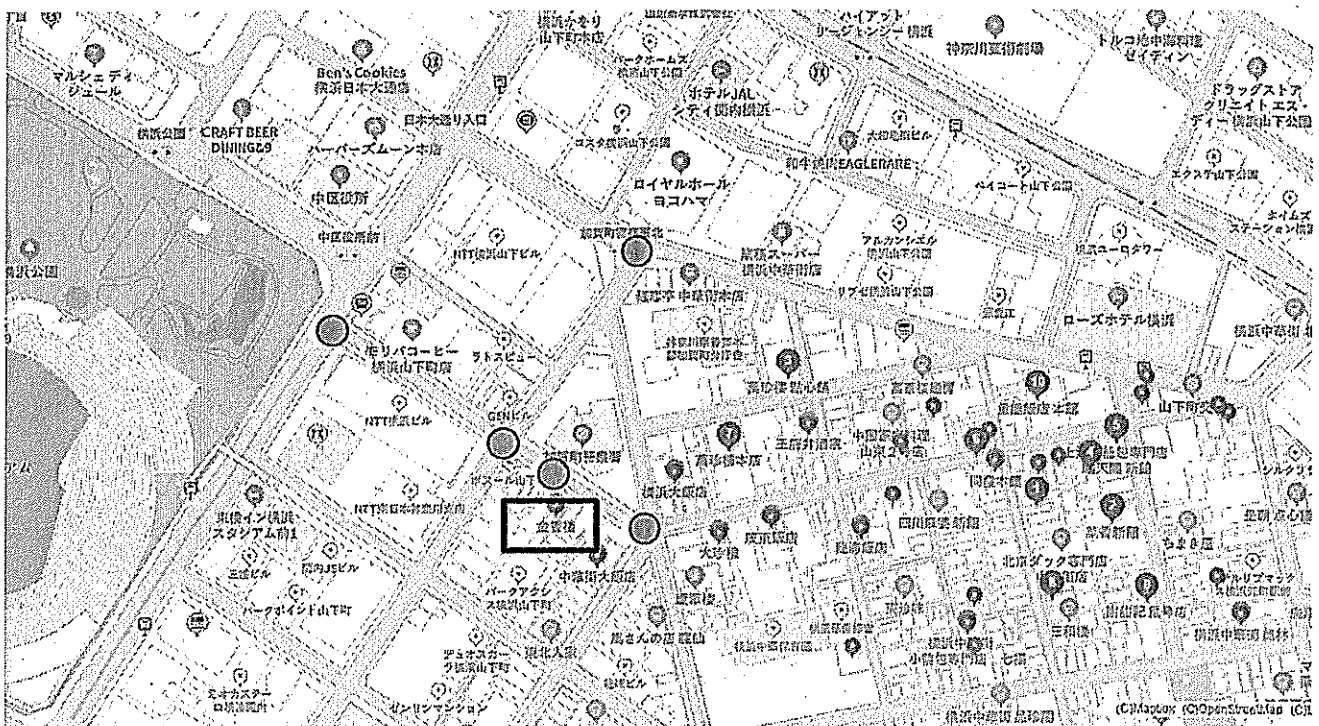
第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会
キャリア会に依頼する業務内容について(案)

1 情報交換会の運営

業 務 内 容		人 数	備 考
案 内	片付け	5	各地点に立ち、会場への誘導
司 会	会場設営	2	当日の進行
受 付		4	参加者の確認とプログラムの配付
会場内案内		2	席案内
写真撮影		2	情報交換会の記録（カメラは生涯学習課）
合 計		15	

※係の方に腕章を配付する。

<案内配置予定図>



○：案内の立ち位置

<次の業務は事務局>

会場との打合せ、情報交換会プログラムの作成、受付名簿の作成
席次名札の作成、情報交換会の内容検討、進行シナリオの作成、会計業務 等

よこすか電子図書館の導入実績について

1 よこすか電子図書館の概要

市民の読書環境の充実を図るため、令和 6 年 8 月 1 日から「よこすか電子図書館」サービスをスタートしました。

電子図書館とは、スマートフォンやパソコンから Web 上の電子図書館サイトにアクセスし、24 時間いつでもどこでも電子書籍を読むことができるサービスです。

利用できる方	横須賀市在住・在勤・在学で図書館カードをお持ちの方 ※市立小中学校の児童生徒及び教員には別途 ID を提供
貸出点数	2 点まで
貸出期間	15 日間（貸出日含む）
貸出延長	1 回のみ（手続き日含め 15 日間） ※次に予約者がいない場合のみ
予約点数	2 点まで
電子書籍数	約 13,000 点（令和 7 年 2 月末現在）

2 学校連携について

朝読書や調べ学習をはじめとした授業等での活用を目的として、市立小中学校すべての児童生徒及び教員に専用 ID を提供しました。10 月 1 日から、1 人 1 台端末で電子図書館が利用できる環境が整っています。

- 対象 小学校 46 校、中学校 23 校、養護学校、ろう学校

3 利用状況（8/1～2/28）

（1）実利用者数・貸出回数・閲覧回数

	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	計
実利用者数	1,397	776	1,550	1,600	1,991	1,709	1,655	10,678
貸出回数	3,009	1,576	2,502	2,115	2,158	2,261	2,074	15,695
閲覧回数	8,843	4,786	8,405	9,464	11,874	8,907	9,134	61,413

(2) 市立小中学校での利用状況（令和6年12月児童生徒読書活動調査より）

① よこすか電子図書館の利用状況

回答	小学校	中学校
利用した	23校	4校
利用しなかった	23校	19校

② よこすか電子図書館を利用した場面（複数回答可）

回答	小学校	中学校
朝読書で利用した	13校	2校
調べ学習で利用した	13校	1校
各教科で利用した	6校	3校
その他	6校	0校

※「その他」の主な内容

- ・電子図書館のオリエンテーションを実施
- ・試験的な利用

③ よこすか電子図書館を利用しなかった理由（複数回答可）

回答	小学校 (23校)	中学校 (19校)
紙の本を利用するので、電子図書館は利用しない	5校	6校
利用する時間がない	8校	5校
電子図書館の使い方がよく分からない	5校	1校
利用したい電子書籍が少ない	2校	3校
その他	11校	8校

※「その他」の主な内容

- ・今年度は試行期間として、教職員のみが利用することになったため
- ・初回ログインの仕方が低学年には難しく、実施方法を検討中のため

4 課題

- ・継続的な利用に繋げるため、電子図書館サイトの新鮮さを保つこと。
- ・新たな利用者層に向けて、効果的な広報活動を展開していくこと。
- ・授業等での利用促進に向けて、学校に対する適時な情報提供やニーズに沿った電子書籍の購入など密に連携を図っていくこと。

市ホームページ掲載の関連情報(家庭教育支援に関連のある情報を市ホームページより拾いどり。全てを網羅しているわけではありません。)

		子育て支援	青少年育成	福祉	健康	社会教育、生涯学習
組織、団体等	市各部局等公的組織	◆民生局こども家庭支援センターこども家庭支援課 ◆児童相談所 ◆民生局福祉こども部子育て支援課 ◆愛らんど(横須賀市の子育て広場 追浜、田浦、ウェルシティ、よこすか、大津、久里浜、西) ◆地域運営協議会(各地域活動団体の連携、ネットワーク化を図り、地域で暮らす人々が主体となって地域の課題を解決するための地域自治組織)	◆子育て支援課 ◆みんなの家・青少年会館 ◆横須賀市ジュニアリーダーズ(子育て支援課) ◆青少年育成推進員(子育て支援課) ◆横須賀市子ども会指導者協議会(子育て支援課)	◆民生局子ども支援センターこども給付課 ◆民生委員・児童委員 ◆横須賀市社会福祉協議会(社会福祉推進委員)	◆民生局健康部地域健康課+中央、北、南、西健康福祉センター	◆中央図書館(+北、南、児童、各サテライト館) ◆自然・人文博物館 ◆生涯学習課(生涯学習センター含む) ◆横須賀美術館 ◆民生局地域支援部地域コミュニティ支援課+各コミュニティセンター ◆建設部自然環境・河川課
	民間等	◆NPO法人、各種団体等(市民活動サポートセンターの「子ども(子育て支援、学習支援等)」分野の登録団体など) ◆子ども食堂運営団体 ◆母親クラブ及び母親クラブ連絡会	◆日本ボーイスカウト横須賀協議会 ◆ガールスカウト横須賀地区協議会 ◆横須賀海洋少年団	◆ひとり親家庭の交流や参加行事運営等を行う団体(母子福祉会、NPO法人等)		◆PTA及びPTA協議会 ◆読み聞かせサークル、ボランティア ◆本市と包括協定を締結している企業、大学(関連のある内容の講座等コンテンツ提供)
研修、講座等	市各部局等公的組織	◆R6子育て支援研修会 みんなで作る子ども食堂～地域全体で子供を見守り育てる～(民生局健康部地域健康課、子ども食堂運営NPO法人の協力) ◆ひとり親家庭生活支援講習会(民生局子ども家庭支援センター子ども給付課) ◆育はぐ(はぐはぐ)教室(6～9か月の親子 赤ちゃんの成長発達を促す遊びなど、各健康福祉センター) ◆明るい家庭・地域づくり(未就学児向け親子手作り体験等 民生局福祉こども部子育て支援課、母親クラブ連絡会の協力)			◆プレママ・プレパパ教室(民生局健康部地域健康課)	◆家庭教育講演会(生涯学習課 市PTA協議会に委託) ◆家庭教育学級(コミュニティセンター) ◆親子参加可能な映画会(図書館、美術館) ◆親子参加可能な各種講座、観察会(自然・人文博物館、横須賀美術館、各コミュニティセンター) ◆動画配信セミナー 災害時の親子の心と体を守るために(公益財団法人明治安田こころの健康財団、市長室危機管理課 共催) ◆ブックスタート(4か月児健康診査時に絵本等が入ったブックスタートバックを親子に配布し、1組ごとに読み聞かせ 図書館)
	民間等	◆ひとり親、子育てに関連する講座(NPO法人)				◆家庭教育学級(各PTA) ◆よこすか自然体験・エコツアー(市内で活動する自然環境団体のイベント紹介ページ 建設部自然環境・河川課) ◆横須賀エコツアー(横須賀エコツアーサポート協会、建設部自然環境共生課)
相談	市各部局等公的組織	◆こども、青少年の悩み事についての相談(民生局子ども家庭支援センターこども家庭支援課) ◆こどもの悩み、子育ての悩みについてのLINE相談(こども家庭支援課) ◆横須賀市子育てホットライン(子育てに関する24時間電話相談)(民生局子ども家庭支援センターこども家庭支援課) ◆お子さんに対するかわり方の相談(民生局子ども家庭支援センターこども家庭支援課) ◆親子支援相談事業(民生局子ども家庭支援センターこども家庭支援課)	◆思春期の悩みについての相談(子ども家庭支援課)		◆ステップファミリーのための子育て相談(ステップファミリーといわれるどちらかにお子さんがいて、結婚または同居により新たに築かれる家族向け 地域健康課) ◆親のメンタルヘルス相談(地域健康課)	
	民間等			◆ひとり親家庭むけワンストップ相談会・交流会(民生局こども家庭支援センターこども給付課、NPO法人の協力・連携)		
交流	市各部局等公的組織	◆子育て応援ひろば すかりぶ(体験しながら学ぶ情報を発信 経営企画部企画調整課) ◆わいわい広場(コミュニティセンターやみんなの家に子育てアドバイザーが出張 愛らんどよこすか・子育て支援課) ◆パパ・ママ応援しゃべり場(追浜地域運営協議会) ◆育はぐ(はぐはぐ)教室(6～9か月の親子 赤ちゃんの成長発達を促す遊びなど、各健康福祉センター) ◆ゆびとま広場(親子遊び、手遊び、読み聞かせ、工作など 久里浜・浦賀・北下浦コミュニティセンター、保育ボランティアの協力)	◆わんぱくフェスティバル(民生局福祉こども部子育て支援課、青少年育成推進員等、民間団体も協力) ◆親子サマーキャンプ(民生局福祉こども部子育て支援課、ジュニアリーダーズ)	◆ひとり親交流会(民生局こども家庭支援センターこども給付課、横須賀市母子福祉会、NPO法人の協力・連携)	◆ママ友・ベビ友おしゃべり会(中央、北、南、西健康福祉センター) ◆ツインズ交流会・全体会(ふたごやみつこの親子遊び交流、情報交換 中央、北、南、西健康福祉センター)	◆絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び等(各コミュニティセンター、図書館)
	民間等	◆親子体験、イベント(母親クラブ連絡会)	◆わんぱくフェスティバル(民生局福祉こども部子育て支援課、青少年育成推進員等、民間団体も協力)	◆ひとり親交流会(民生局こども家庭支援センターこども給付課、横須賀市母子福祉会、NPO法人の協力・連携)		◆読み聞かせサークル、ボランティア(コミュニティセンターや社会福祉協議会と協力・連携)